



# 昭和女子大学 創立100周年事業

EST.1920

100<sup>th</sup>  
Anniversary

## まえがき

昭和女子大学は、1920年に創立者人見圓吉、緑夫妻の発意のもと、5名の同志の手で創立された「日本女子高等学院」を前身に、戦災や火事などの幾多の苦難を乗り越えながら、1世紀にわたって学灯を受け継いできました。

そして2020年、昭和女子大学は創立100周年を迎えることとなりました。

この記念すべき節目を盛大に祝うため、学園は2020年11月9日に創立100周年記念式典を開催することを決定しました。これに先駆け、学園に関わる全ての人が未来に向けて確かな決意を固め、それを社会に明示していくことを目的に、昭和女子大学は100周年記念事業企画委員会を発足、各種記念事業に着手しました。

迎えた創立100周年、学園は大きな困難に立ち向かうこととなります。

世界規模で猛威を振るう新型コロナウイルス感染症のパンデミックです。世田谷キャンパスが位置する東京都では、2020年4月に最初の緊急事態宣言が発令、同年に予定していた東京オリンピック・パラリンピックは1年延期、人々の暮らしのすべてが一変しました。

昭和女子大学も卒業式や入学式などの式典、学寮研修をはじめとする学内行事の多くが中止を余儀なくされました。

未曾有の苦境を前にしても、学園はくじけることはありませんでした。学びの灯が消えないように、教職員は一体となってオンラインで学ぶ環境を整備しました。坂東眞理子 理事長・総長は“Never waste a good crisis.(せつかくの危機を無駄にするな)”と学園一同を励ましました。それぞれが今だからできることを模索し続けました。

そして2020年11月9日、昭和女子大学は創立100周年記念式典を規模を縮小しながらも無事に開催することができました。

本書を通じて、創立100周年記念式典と各種記念事業の歩みについて紹介します。

学校法人昭和女子大学



## INDEX

- P.4 創立100周年の思い
- P.8 創立100周年記念式典・シンポジウム
- P.12 創立100周年シンボルマーク
- P.14 学園イメージソング「For Our Dreams」
- P.18 写真展「思い出の昭和女子大学・三軒茶屋」
- P.41 昭和学園の100年
- P.56 歴代理事長・学長・校長
- P.58 インタビュー SHOWAISM ～私のストーリー～
- P.66 世界食堂
- P.67 創立100周年記念オリジナル LINE スタンプ
- P.69 創立100周年記念グッズ
- P.70 Instagram
- P.73 広報活動
- P.74 創立100周年事業に携わった教職員・学生
- P.75 創立100周年事業を終えて ～感謝の言葉～

## 創立100周年の思い



## 創立100周年そして未来へ

1920年、大正9年小石川で教師5人、生徒8人で始まった日本女子高等学院は大正、昭和、平成、令和と4つの時代を生き抜き、100年の間、学灯を受け継いできました。現在では大学学生は6千人あまり、こども園、初等部、中高部、BST(ブリティッシュ・スクール・イン・トウキョウ昭和)をあわせ9千人近い児童生徒学生がこの世田谷区太子堂の地で学んでいます。

日本女子高等学院はその後日本女子専門学校となり、1949年には昭和女子大学と発展しましたが、その間、関東大震災、第2次世界大戦による戦災、昭和30年の火災など多くの災禍を乗り越えてきました。2020年11月9日の100周年記念式典もコロナパンデミックのもと当初の計画通りできませんでしたが、こうした状況に負けることなく、100周年記念事業の数々が実行されました。この冊子はそうした取り組みをまとめた記念碑となります。

昭和女子大学は現在、グローバル教育、キャリア教育で多くの取り組みを行い、高い評価を得ています。今後はこれを基盤として、数理リテラシーを身につけ新たなデジタル社会で生きる力を身につける、同じキャンパスにあるテンプレ大学ジャパンキャンパスとダブルディグリー・プログラムや科目等履修などの交流を進める、社会人が新たな力を身につける経営大学院などを充実する、などを推進し、新しい世紀に踏み出します。

創立者の夢と志、それを支え受け継いだ多くの先哲のご尽力によってつないだバトンを受け継ぎ、そしてこの学園から巣立っていかれた9万人以上の同窓生とともに次の百年も「世の光」となる人材を育てて参ります。

昭和女子大学 理事長・総長  
坂東 眞理子





1920年に教師5名と受講生8名で始まった本学の前身『日本女子高等学院』が、『昭和女子大学』として創立100周年を迎えた2020年度には、卒業生数は10万人に迫りました。本学が、学生数も教育内容も大きく成長して100周年を迎えられたのは、昭和を支えてくださった皆さんが、『開講の詞』に示された建学の精神のもと、なすべき仕事にすべてを懸けてこられた結晶ではないでしょうか。

「想い出の昭和女子大学・三軒茶屋写真展」は、本学の足跡と共に、数々の苦難を乗り越え不死鳥のように大空に再び飛び立った恩師や先輩たちの力強さを見せてくれました。若い有志を中心に、準備し、展開したイメージソングや未来とビジョンを語る大会議などの100周年事業も、次の100年に繋がる成果を挙げています。

100年先も、今の私達が実感しているのと同じ様に、本学があるのは先輩や恩師のたゆみない努力の結晶だと思ってもらえるよう、新しい将来を目指して前進しましょう。

昭和女子大学 副理事長  
金子 朝子



1920年、第一次世界大戦後の荒廃した日本で人見東明は、これからの新しい平和で豊かな文化を創造し担うことができる女性を育成することを目指し、本学の前身である「日本女子高等学院」を創立しました。その後、現在に至るまでに戦災や火災などの困難を乗り越えて新しい校舎や、研修学寮、人見記念講堂などが次々と建設され、アメリカにも昭和ポストンが設立されました。この間、「世の光となろう」のスローガンの下に多くの教職員が教育と学園の発展に力を尽くし、9万8千人を超える学生が卒業していきました。この学園にはそれらの人々の努力と意思がつまっています。100年後の今、私たちは建学の精神を受け継ぎつつ、平和で持続可能なグローバル社会の実現と発展を牽引できる女性を育成する責務を負っていると思います。この学園に学ぶ学生の成長のためにどのような教育が必要か、何ができるかを真剣に考えつつ創立101年目の一步を力強く踏み出したいと思います。

昭和女子大学 学長  
小原 奈津子



帝国データバンクの統計データによると、企業の10年後の生存率は約70%、20年後に約52%となっているという。大企業の数々を含め、20年後には約半分しか生存していないということになる。これを踏まえ、あらためて、この昭和学園・学校が100年続いてきた理由はなにか、次の100年でも求められ、支持される学びの場であり続けるために初等中等教育部門が組織としてどう動いていくのかを考えたい。

創立者人見圓吉先生の「世の光となる」人材を育てる学校を運営するという壮大な思いを、それに続く我々が、実現するためには何をするのか、もっともっと進化させていくにはどうすべきなのか。まさに時代を先取りしてきたからこそ、この100年の歴史を刻むことができってきたのだ。あえて言えば、過去の実践や経験、実績、仕組みにとらわれ、現在の社会の変容や、未来予想をすることなくパラダイムシフトができなければ、たちまち取り残されて機能しない組織になり果てる。預かる子どもたちの未来のために、老舗だけれど、その上に、なおかつベンチャーの機動力を持つ組織へ変容するための努力を続ける。伝統は、これまで積み上げたものの上に、時代の先を見たイノベーションを積み上げていくことでこそ守られていく。

昭和中学・高等学校 校長  
昭和小学校 校長  
真下 峯子

昭和女子大学が創立100周年を迎えた年に、附属昭和こども園は創立5年目を迎えました。もとより、それ以前に附属幼稚園としての長い歴史がありますが、園舎改築を機に、幼保連携型認定こども園として2016年4月に再出発しました。幼児教育を担う幼稚園と子どもの福祉の増進を目指す保育所の両方の機能を併せ持つこども園は、新しい時代の社会のニーズに応えるための保育・教育システムです。保育・教育を担うのは、保育士資格と幼稚園教諭免許を併せ持つ保育教諭という専門家であり、子どもの発達過程を大事にしながら、一方で、子どもの生きていく長い人生を見据えつつ、日々の保育・教育を展開しています。

「世の光となろう」という目標は変わりませんが、その目標を達成するための保育・教育は時代とともに変わる必要があります。幼児教育が無償化となった背景には、社会の幼児教育への大きな期待があります。時代の変化と社会からの期待を意識しつつ、「子どもたちの20年後に生きる保育・教育」を行うべく、教職員全員が研鑽を積み切磋琢磨していきます。

昭和こども園 統括園長  
藤崎 春代



創立者人見圓吉先生と緑先生の女子教育へのおもいは、現在も坂東眞理子先生へと受け継がれております。学園の歴史を語る書物には、カーキ色の作業服に戦闘帽、破れた靴をはいたお姿でリヤカーを引く人見圓吉先生のお写真が必ず掲載されています。校務の合間をぬい寸暇を惜しんで、戦後に移転した世田谷キャンパスを整備されていたのです。人見楠郎先生は、二人の職員とともに植栽の整備をされ、つつじを挿し木で増やし、学内や東明学林に見事な花を咲かせたことは強く印象に残っております。学生の感性をゆたかに育てるため、実践倫理で毎年花の場所を変えた花地図を描かせておられました。

新たスタートした学園のご発展を卒業生の皆さまとお祈りしております。

昭和女子大学  
光葉同窓会 会長  
比護 和子



祝歌の一節で「ああ43年まっしぐらに」と歌っていた在学時代から「ああ100年まっしぐらに」と歌う度に感慨を覚える。

昭和学園は多くの苦難を乗り越えてきた。1955年に大火にあい校舎を焼失した。その時在学していた会員がいる。先生方・生徒が一丸となって復興に全力を傾けた。現在のコロナ禍の中、先人の努力を学ばなければならない。

未来とビジョンを語る大会議で、現役で働く卒業生の話を聞いた。日本人だけを相手に仕事をするのではなく、世界中の人と交渉をしている現実を知った。多様な考えや文化を受け入れリーダーシップを取って活躍する卒業生の姿に感動した。

これからも世界で活躍する人材を育てている母校を応援すると共に社会で自らの持てる力を発揮している卒業生を支援していきたい。

昭和中学・高等学校  
光葉会 会長  
野口 富子



大正9年に本学が人見圓吉先生により創立され100年が経ちました。昭和28年4月には初代校長人見圓吉先生、人見楠郎主事先生の許、昭和小学校が付設され、ほぼ70年の歴史を歩んでいます。すでに6000名を超える卒業生が巣立ち、各方面で活躍しています。木造校舎として誕生した学び舎もいまは近代的な建物になっていますが「世の光となろう」との理念・目標はいまも脈々と引き継がれ、卒業後もお互い強い絆で結ばれながら社会の中でそれぞれに大切な役割を果たしています。

昭和小学校同窓会桜友会は2006年11月に中田彰生前会長(1期生)をはじめとする初代役員の方の尽力により誕生し、現在に至るまで、恩師の先生方とともに様々な活動を通して卒業生の礎となっています。昭和女子大学の101年からの次世紀を迎えるにあたり、昭和小学校はもとより、桜友会もともにしっかりと歩んでいきたいと思っております。

昭和小学校  
桜友会 会長  
平原 史樹



## 創立100周年記念式典



**開催日** 2020年11月9日

**場所** 人見記念講堂(オンライン配信も実施)

創立100周年記念式典は11月9日に人見記念講堂にて開催されました。コロナ禍を受け、当初の予定より規模を縮小しています。金子朝子副理事長が司会進行を務めました。

### 【プログラム】

#### ■ 光の躍動

〈開式〉

#### ■ 校歌

#### ■ 開講の詞

#### ■ 式辞 坂東理事長・総長



学園のこれまでの歴史を振り返りながら、現代社会を支える専門的知識やスキル、志を育てることを目的とする現在の昭和女子大学の取り組みを説明しました。まず、学園全体でグローバル人材の育成に力を入れていることを紹介しました。具体的には昭和ボストンの活用、ダブルディグリー・プログラムの展開や敷地内にあるテンプル大学ジャパンキャンパスとの交流などを挙げまし

た。加えて、女性の人生展望や社会の期待の変化にあわせたキャリア支援に注力していること、社会の課題を発見・解決する人材を輩出するためにプロジェクト型学修に力を入れていることを紹介。今後の展望として、2021年から社会人向けの1年制大学院の新設や、TJUとの共同研究プロジェクト、附属校から一貫してのSTEAM人材育成を目指すことを宣言、新たな知性をめざして、たゆまず進んでいきますと決意を表明了。

#### ■ 祝辞 人見楷子名誉理事長



新型コロナウイルス感染症の影響により、記念式典にご列席いただけなかったため、メッセージを金子朝子副理事長が代読しました。

何事にも気力を燃やし、たゆみなく実力を養い、いつでも魅力たっぷり。そして素晴らしい迫力で行動するような人間を育てる学園であり続けますようにというメッセージを贈られました。

## ■祝辞紹介

小池百合子 東京都知事、斉紅 上海交通大学  
人文学院党委員会書記、平野 信行 一般財団  
法人三菱みらい育成財団理事長

## ■記念スピーチ 馬場あき子氏

(卒業生・歌人・文芸評論家)



馬場氏自身が在学されていた当時のエピソードを交えながら、第2次世界大戦を経て、世田谷に移転し、現在に至るまでの学園の歴史を振り返られました。昭和女子大学が教養を大事に教えてきたことを強調。グローバルの時代において日本固有の文化の本質を語り継いでいくこと、守っていくことの重要性を語りかけられました。

## ■特別功労章の授与

(稲穂照子理事・光葉同窓会)

## ■スライド

(学園のあゆみと現在、100周年記念事業各企画紹介)

## ■昭和学園イメージソング

「For Our Dreams」

ピアノ演奏 松本俊明氏(作曲者) / 歌唱  
イメージソングプロジェクト・初等教育学科  
学生

## ■祝歌

ピアノ伴奏 初等教育学科 太田有紀さん  
/ 独唱 中等部 石川響さん

〈閉式〉

## 「開講の詞」について～人見楳子名誉理事長の祝辞から～

column

誕生の深い思いを、創立者は「開講の詞」<sup>したた</sup>に認めております。古い録音ではございますが、創立者の生の声で「開講の詞」を聞いていただきました。その「開講の詞」に託した創立者の思いを2代目理事長はわかり易くする為、次のように説明しております。

「この開講の詞は長文におよぶので、日頃、私は“世の光となろう”を学園の目標とし、開講の詞の第3節にある“目ざめたる婦人”“正しき婦人”“思慮ある力強き婦人”を学生・生徒に対して絶えず呼びかけています。この目標の実現の為に“清き気品・篤き至誠・高き識見”を校訓三則にしています。つまり、この校訓三則を育む事が昭和学園の目標なのです」

また、創立者はこの目標を達成する為にはどのような学園生活を送ったら良いかについて、次のように書いております。

あなた方の未来の為に  
日本人の幸福の為に  
粗金のような「我」を磨き  
磨きにみがき  
磨きあげて 玉のような光をはなち  
世のともしびとなり 道しるべとなる為に。

幼稚園から大学まで自分を磨きあげ、社会に出てからも玉の様な光を放ち出せるように更に自己を磨き続ける……。創立者は、これが人生の教育だと書き残しております。100年が経ち、多くの卒業生が世の中で光を照らし続けてくださっていらっしゃいます。ロシアのトルストイが作ったような学校を念頭に置き、また、インドのタゴールが国際大学を創立したように、昭和学園の創立者は、詩人としてのペンを置き、少女の心に詩を書きたいと思いついて教育の道に入りました。そして女性が是非持つべき特性の「女らしさ」を大切にしたいと願いました。

思いやりや 心を込めてする「暖かさ」  
激しさを表さない 角を立てない 他人を傷つけない「なごやかさ」  
どんなことにも心を配る「こまやかさ」  
明るく素直に考える「あかるさ」

などは、当然、男の人にも求められるものですが、よく考えてみるとこれらの特性を持たない人を女らしいとは言わない気がします。これからの時代を担うにふさわしい女性とは、男性と同等の能力を持つほかに、更にこうした「女らしさ」の特質を併せ持っている者をさすのでしたら、女子大学生としての生活は、男性以上の努力精進を前提としていることとなります。無理矢理に男性の前に押し出す必要はありませんが、女性らしさを常に上手に言動の基盤に置く事が大切です。

1914年6月に当時オーストリア領、現在はボスニア・ヘルツェゴヴィナ領のサラエヴォ市で当時のオーストリアの皇太子が暗殺されました。この事件がきっかけで、第1次世界大戦が始まりました。創立者の「開講の詞」の始めに「五年と云ふながい間、世界の空は陰惨な雲に掩はれて、人々は暗い檻の中に押し込められて、身動きも出来なかった。」と書かれています。この暗闇の5年間とは、この第1次世界大戦のことを意味しています。その戦争のあと、今こそ女子教育が大切だ、女性の力を充分に発揮できない世の中は戦争に明け暮れてしまうと考えた創立者の思いは、現在の世界を見ても相通じるところがあります。

過去を知らざる者は、現在を理解できないし未来を作り出すことはできない。

昭和学園の創立の理念をご理解いただき、今の学園のあり方を理解していただき、これからの50年・100年先の学園を築き続けていただきたいと願っております。

## 創立100周年記念シンポジウムI

### 「女性リーダーは世界を変える」

開催日 2020年11月9日

このシンポジウムは11月9日、創立100周年を記念して、オンラインで開催されました。今春国内のメディアで初めてジェンダー平等宣言をした朝日新聞社が共催、30% Club Japanが後援し、全国各地から約1,000名が視聴しました。SDGsのめざすジェンダー平等の実現に向けて、これからの社会で女性リーダーが果たすべき役割とは何か、未来型のリーダーとして活躍するのはどんな女性かを議論しました。

#### 基調講演 坂東 真理子 理事長・総長

制度上での男女平等は達成されましたが、世界経済フォーラムのジェンダー・ギャップ指数で121位というのが日本の現実です。さらに少子化や格差の拡大、あるいは気候変動や感染症の蔓延といった地球規模の課題に対処するためにも、新しいリーダーシップが求められています。具体的には、チームのメンバーとともに学び成長する、リーダー自身がメンバーにケアや奉仕を提供するなど、周囲を巻き込んでいく資質がリーダーに重要になっています。従来の価値観を上回るのではなく、「違う」価値観を提示する「パラダイムシフト(考え方の大きな転換)」が必要です。また、私たちのなかのアンコンシャスバイアス(無意識の思い込み・偏見)に対しても、しっかり向き合っていく必要があります。女性は出世して責任を負いたくないんだよね、家庭で子どもを育てるほうが幸せでしょ、と思いやりのつもりでそうした言葉を口にする男性もいます。一方で女性たちも、家事をおろそかにして家族に迷惑をかけるわけにいかない、管理職になると風当たりが強い、といった考え方をしていないでしょうか。政治が悪い、経営者が悪いというだけでは世の中は変わりません。当事者として自分は何をするのかが問われています。同僚が子育てと仕事の両立に苦勞していれば、できる範囲で負担を減らしてあげたり、もっと人を増やして欲しいと会社にか



けあうなど、自分の手の届く範囲から変えていきましょう。

#### パネルディスカッション

社会のなかでリーダーとして活躍する女性たちと、女性たちのさらなる活躍に期待する企業を招き、求められる新たなリーダー像と、女性の力をもっと生かしていくために大切なことをパネリストの体験談をもとに話し合いました。ジャーナリストで昭和女子大学現代ビジネス研究所研究員の治部 れんげ氏がファシリテーターを務めました。

#### ・これからの時代のリーダー像とは

##### 花王株式会社 代表取締役社長 澤田 道隆氏

力でグイグイ引っ張るのではなく、チームの一人ひとりが持つ力をうまく引き出す人だと思います。

##### 永山祐子建築設計 代表 永山 祐子氏

最初から自分のなかに答えを持たないこと。建築家とクライアント、あるいはリーダーとメンバーといった壁をつくらず、一緒に考えて答えを見つける。目線を合わせて並んで歩くことが大事だと思います。

##### ボストンコンサルティンググループ マネージング・ディレクター&シニア・パートナー

##### 秋池 玲子氏

意思決定のためにいい議論をすること、そのためにいい準備をすること、その決定事項の実行について皆の納得を得ることが大切です。任せられる仕事はどんどん任せることも重要で、それによって若手は経験を積み、リーダーはその間に新しい取り組みに時間を使えます。成長したメンバーは、いずれ将来のリーダーになるという好循環を常に意識しています。



## 創立100周年記念シンポジウムⅡ

### 「必要とされる女性経営人材とその育成」

開催日 2020年12月5日

このシンポジウムは12月5日、オンラインで開催されました。パーソルホールディングス株式会社と共催し、これからの時代を担う女性リーダーに何が求められるのかを議論しました。

#### 基調講演 坂東 真理子 理事長・総長

2003年に初代男女共同参画局長を務めた際に閣議決定した【2020年までに指導的位置に女性が占める割合を少なくとも30%程度とする目標(202030)】が15%にも到達していない現状を確認しました。

女性達が活躍しダイバーシティを実現することが重要であるという認識が深まってきているにも関わらず、女性の管理職登用が増えていないのは、組織の土壌づくりができていないのではないかと問題意識を述べました。そのうえで、女性の成長にとって「3つの『き』」(将来に『き』たいする、挑戦する『き』かいを与える、厳しく『き』たえる)が重要だと強調しました。

「女性に無理をさせてはいけない」、「家事や育児は私の責任」という男女双方がとらわれている「アンコンシャス・バイアス」の打破と「社会に良い価値を与える経営幹部」を増やすことが必要だと締めくくりました。

#### パネルディスカッション

企業で活躍する女性役員をお迎えして、「企業の現状とキャリアパス」と「企業内の女性経営人材育成」を議論しました。

パネリストとして、大和証券グループ本社・白川香名常務執行役員、りそな銀行・新屋和代常務執行役員、商船三井・毛呂准子執行役員、昭和女子大学・武川恵子グローバルビジネス学部長が登壇、パーソルキャリア・大浦征也執行役員がファシリテーターを務めました。

冒頭に大浦氏が【202030】の先送りなどの現状を概観し、多様化する社会で女性の強み

をどのように経営に生かしていくかという課題を提起しました。

次に、元内閣府男女共同参画局長である武川学部長は、女性役員比率が高い諸外国の取り組みや、日本政府が行っている育成研修について説明しました。

#### テーマ① 「企業の現状とキャリアパス」

(白川氏) 今までいろいろな部門で経験を積み、機会を与えてもらい、その中で努力してきた。人事担当者として「誰が本当に頑張っているのかをきちんと見極める」ことを意識している。女性に限らず正当な評価をしたい。

(新屋氏) 初めて上のポジションを与えられた時は、「業務分野で求められる責任を果たせていないのではないか」、「スキルの高い部下の上長としてどのように振舞えばよいのか」と自信が持てず悩んだ。今、自分が人事の立場に立ってみると、「そのポジションができる人だ」と評価したうえで登用しているので、自信を持ってほしい。

(毛呂氏) 女性管理職前後のワークショップでは「顔が見える」取り組みをしている。人に奉仕する事を大切にする「サーバントリーダーシップ」、様々な役割の積み重ねである「ライフキャリアレインボー」、職場だけではない繋がりでの新しい気づきをもたらす「WeakTies」、人生100年時代の働き方の多様化「ライフ・シフト」を紹介している。

#### テーマ② 「企業内の女性経営人材育成」

(白川氏) 3つの『き』に共感する。男女問わず誰でも「期待されている」と感じ、それに応えようと積極的に動き、周りにも好循環となってきている。

(新屋氏) 様々な業務経験を積むことが重要なので、配置・育成・登用のサイクルを意識し、人材管理している。個々人がキャリアをしっかり築いていける制度と運用の仕組みを導入していく。

(毛呂氏) 男女問わず経営人材を持続的に輩出する必要がある。女性社員にはライフイベントが起きる前に海外で仕事をやる経験をしてもらうよう機会を与えている。

パーソルホールディングス(株) 水田正道 代表取締役社長 CEO は「この20年で女性活躍は随分進んだが、まだまだである。組織内の風土、文化が重要であることを痛感した」と述べた。

昭和女子大学・小原奈津子学長は、「大学としては、企業や社会から求められる資質を持った学生を育てていく必要がある。更なる大学教育の向上と教育プログラムの工夫を進めていきたい」と締めくくった。



## 創立 100 周年シンボルマーク



創立 100 周年を象徴するシンボルマークを制作いたしました。本学所属の在学生、中高部生徒、教職員、サポーターズ・クラブ会員の皆さんから応募いただいた 91 作品の中から、厳正な審査によりシンボルマークを決定しました。

**募集内容：**創立 100 周年シンボルマーク [ 原案 ]

学園の強み「グローバル・キャリア・ワンキャンパス」や 100 周年後の「飛躍」がイメージできる作品

**募集期間：**2017 年 10 月 16 日～ 2017 年 11 月 27 日

**応募資格：**昭和女子大学在学生、附属中学校・高等学校在校生、昭和女子大学サポーターズ・クラブ個人会員、学校法人昭和女子大学教職員

**審査日：**2017 年 12 月 6 日

**審査方法：**学校法人昭和女子大学 100 周年委員と有識者による選考委員会で厳正に審査を行う

**結果発表：**2017 年 12 月 13 日

**応募数：**91 作品

**受賞者：**最優秀賞 1 名 入選 3 名



最優秀賞



**作者** 袖山 かれん（生活科学部環境デザイン学科 2 年）※

**作品タイトル** 世界へ羽ばたける女性に

昭和女子の強みである「グローバル」をイメージし、100 の数字を地球のように表現しました。そしてその 100 を囲うようにして羽を描くことで、世界を回って活躍できる人間になってほしいという願いを込めました。羽は昭和女子のイメージカラーである青色にしました。フォントは女性らしく、それでいて力強いカリグラフィを用いました。



入選作品



**作者** 高橋 悦子（昭和高等学校 6 年生）

百周年ということが一目見て分かるように、大きい 100 をアレンジしたものを主役にしました。縁取りと文字はスクールカラーであるスカイブルーをイメージした色で、全体はお祝いの雰囲気を感じさせる暖かいピンク色にしました。100 の 1 は感嘆符を模しており、百周年という節目を迎えた喜びを表し、0 は完全な円にして、グローバル（地球）と年代を超えた昭和の学生のつながりを表しています。百にかかっているインフィニティのような帯は、右肩上がり昭和の未来への発展と広がり、それが無限に続くことを表しています。Established についている星は、世の光となるようにしている学生の輝きを表現しています。



**作者** 砂川 栞（生活科学部環境デザイン学科 1 年）※

この作品は昭和女子大学が創立時に教育の理想としていた「愛と理解と調和」をイメージして作成したものです。1920 年から始まり、100 年間飛躍し続けてきた昭和女子大学のさらなる飛躍を願い、100 年後も 200 年後も 300 年後もハートを繋げていけるデザインになっています。



**作者** 長谷雄 翠（教学支援センター教育支援課 職員）

**作品タイトル** 新たな船出のとき

昭和女子大学を船にみたと、100 周年という区切りを新たな出発点として、未来という大海原へ航海を始めるさまを表現しました。

船体は大学を支える方々を、帆は一つとして同じ色がない学生達を、帆軸は大学を支える歴史を表しています。

「女性文化の帆を張りて 海路はるけく漕ぎ出たり」

校歌にもあるように、どんな荒波にも、学生の力で様々な未来に向かって進める大学であることを願っています。

※現環境デザイン学部環境デザイン学科

## 学園イメージソング 「For Our Dreams」

創立 100 周年をきっかけに、在学生・卒業生・教職員の心を 1 つにする新しい音楽作品を生み出し、新たな伝統として歌い継いでいくために、学生のべ 13 人を中心に、職員 5 人と協働しながら昭和学園のイメージソング「For Our Dreams」を制作しました。「For Our Dreams」は、作曲家・ピアニストの松本俊明氏が作曲し、歌詞は学園の一体感醸成を目的に学生・教職員・附属校・卒業生からフレーズを公募し、プロジェクトチームが編纂しました。

### ■歌詞

#### テーマは、“未来へ進もう Next Stage へ”

楽曲は、自分の未来へ前向きに進んでいこうという思いを込め、「未来へ進もう Next Stage へ」をテーマに編纂しました。

#### For Our Dreams (昭和学園イメージソング)

昭和学園一同 作詞  
松本 俊明 作曲

1. 青い空見上げて 鐘の音がきこえる  
風がそよぐ肩に 光る木の葉が踊るよ

たくさんの出会いと 想い出を抱いたいて  
夢見るあの場所へ そうきここから羽ばたく

時に悩み 時に迷い くじけそうになるけど  
信じてみよう 自分の力を  
さあ For my dream

あふれたした夢と 七色の輝きで  
行き先の地図を描き出そう そして  
私らしく笑顔で 未来へ進もう  
Be a light to the world 扉ひらいて

2. 桜舞い散る春 青葉が揺れる夏  
秋桜踊る秋 泉に雪つもる冬

かけがえない仲間たちが  
いつもそばにいるから  
信じてみよう みんなの力を  
さあ For your dream

雨上がりの空に 七色の橋架けて  
世界へと 強く踏み出そうよ そして  
私らしく笑顔で 未来へ進もう  
Be a light to the world 扉ひらいて

For our dreams

あふれたした夢と 七色の輝きで  
行き先の地図を描き出そう そして  
私らしく笑顔で 未来へ進もう  
Be a light to the world 次の舞台へ

夜明けの空に 光射す  
さあ世界は 君を待ってる

※歌詞は教職員、中高等部、OG などから広く案を募集し、それらの案をもとにプロジェクトチームで編纂しました。全体の中に、昭和女子ならではのフレーズがたくさん散りばめられた素敵な歌詞が完成しました。

#### ◎歌詞に込めた「昭和学園らしさ」

1 番では、学園のなじみ深い風景を描いています。「青い空」はスクールカラーのブルー、「鐘の音」は大学のチャイムのカリヨン、「光る木の葉」は学園を支え続けてきた光葉会・光葉同窓会を連想させます。

2 番では学園のグローバル化やダイバーシティ推進に力を入れている様子、自然豊かなキャンパスを表現しています。特に秋のフレーズは秋桜祭を、冬のフレーズは昭和之泉に雪が積もる昭和学園ならではの風景を表しています。

サビでは学園の目標・建学の精神である「世の光となる Be a light to the world」を組み入れ、一人ひとりが社会で広く活躍する姿が思い浮かぶ歌詞に仕上げました。

また 1 番から大サビにかけて my, your, our と自分だけの夢から私たちの夢に広がっていくところもポイントです。自分一人だけではなく仲間と協働し、助け合いながら前に進む力を身に付けていけたら、という願いを込めています。

ラストの C メロでは、「夜明けの空」は本学園創立者の人見圓吉氏の「開講の詞」の一節、「夜が明けようとしてゐる」にインスピレーションを得ました。これによりこの曲が 1 日の始まりから終わりを追っていき、流れ、回り続ける日々にはふさわしいものとなっています。

歌詞全体を通して、昭和学園のイメージソングでありながらも学園一同の背中を押す応援ソングとなるよう意識して編纂しました。

タイトルは、初め「あなたの夢」に焦点を合わせた応援歌的なニュアンスの強い“For Your Dream”としましたが、より適切に歌詞を表現するため、最終的に「自分も含め、一人ひとりが夢の実現のために進んでいく」という意味を持つ、“For Our Dreams”となりました。



## ■楽譜

昭和学園一同 作詞  
松本 俊明 作曲

### For Our Dreams

(昭和学園イメージソング)

あおいそらみあ びてー かねのながきこーえら かぞせーまてか  
たくさんのであ いとー おらいでせいでーいて ちあみらーあほ  
ーたに ひかるこのほーかおーどるよー ここかーらはーげたくー  
ーしよへー そうき  
ときになーやみー ときになーよいー (くじそーらになーるけどー しんじてみよ) じぶんのも からを  
ーさあ For our dream あみだーしたーゆめーと なないろーのかーがやまでー  
いさぎよーの らずをんーがすだーそよーそして わたしらしく えががで あいーへすも  
う Be a light (to the world) とひらーひらーいてー  
まあびーのーそらにひかりさーすーさあーせかいーはーき  
あーをまってー

## ■作曲者紹介

松本 俊明 氏

作曲家/ピアニスト/サウンド・  
プロデューサー



現在、日本のみならず世界の音楽業界でも注目を集める作曲家・ピアニスト。国内外を問わず、幅広いジャンルのアーティストに数多くの作品を提供。代表作として、MISIAの「Everything」や「果てなく続くストーリー」、JUJUの「この夜を止めてよ」など。多くの人の心に残り、長く愛される楽曲作りを得意とすることから、学園イメージソングを依頼しました。

## ■ミュージックビデオ

楽曲と学園の魅力を可視化し、視覚的・聴覚的にアプローチするべく、ミュージックビデオ(以下、MV)を制作しました。プロジェクトでコンペを実施し、検討を重ねて制作会社を選定し、キャンパス内で撮影が行われました。



### ◎制作コンセプト

#### 【過去と現在を繋ぐ100年ダンス】

昭和学園に関わる様々な人々が、学園にまつわる様々な場所で同じ「100年ダンス」を踊ることで一つに繋がる、というコンセプトを基に制作しました。振り付けは歌詞とリンクさせることで、楽曲に込めた思いや歌詞の意味を視覚的に伝えます。

MVには、現役の大学生や附属校の園児・児童・生徒、教職員、卒業生らが出演、創立後まもない頃の在學生やアメリカにある昭和女子大学の海外キャンパス「昭和ボストン」もグリーンバック合成で登場させることで、昭和学園が100年間で築いてきた時代の繋がりや世界との繋がり、学園全体の一体感を表現しました。



## ■ CD

楽曲を形として残すことを目的に制作しました。ジャケットデザインはデザイナーに依頼し、意見を交換しながら完成させました。楽曲イメージや、100周年としての伝統や歴史の流れを表現することを意識しました。スクールカラーの空色や歌詞の最後にある「夜明けの空に光射す」からデザインのヒントを得て、フォントや色味、掲載写真、ブックレットのメッセージにもこだわって制作しました。





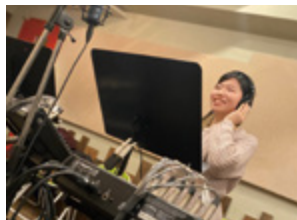
## 時系列ごとの活動紹介



学生・職員によるミーティング



秋桜祭でのお披露目



レコーディング



オンライン合唱チャレンジ



100周年記念式典での歌唱



昭和小学校の子どもたちがMVにあわせて踊る

### 2018

- 4~12月 企画概要の学内承認。  
職員プロジェクトチーム発足

### 2019

- 1月 学生プロジェクトメンバー公募
- 2月 松本俊明氏による在学生へのヒアリング
- 4月 楽曲メロディー完成
- 6月 学内への歌詞募集
- 7月 プロジェクト訴求のため「松本俊明さんと作曲を学ぼう! Music Workshop! in SWU」開催
- 8~12月 歌詞編纂・タイトルは「For Our Dreams」に決定
- 11月 歌詞完成・秋桜祭ステージにて歌詞の初披露



7月 松本俊明さんと作曲を学ぼう! Music Workshop! in SWU

### 2020

- 3月 「For Our Dreams」楽曲レコーディング
- 4月 楽曲完成、新入生歓迎フェスタ等での公開を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大を受け延期・中止となり、急ぎよ「For Our Dreams」を昭和女子大学のウェブサイトにて配信開始。楽曲の訴求のため「オンライン合唱チャレンジ」を実施。
- 7~10月 CD制作
- 11月 100周年記念式典にて松本氏のピアノ演奏とともに学生による「For Our Dreams」歌唱
- 12月 文化研究講座にて東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団による「For Our Dreams」演奏



7月 光葉同窓会や附属校でも活用している。比護和子同窓会長と。

### 2021

- 3月 新型コロナウイルス感染拡大を受けて時期が未定だったMV撮影を実施
- 5月 101周年記念式典でMVを初公開。プロジェクトを伝統にするための企画・立案実行  
学校本部・各部署へ交渉開始
- 7月 吹奏楽、箏、マンドリンバージョンの楽譜制作
- 9月 プロジェクト解散



3月 プロジェクトの学生がMVの企画・運営・進行了った。

## 想いの昭和女子大学・三軒茶屋写真展



### 開催概要

開催期間：2021年5月14日（金）～6月20日（日）

※土日休館、ただし5月16日（日）、6月20日（日）は開館

※新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて1年延期後の開催

開催場所：昭和女子大学 7号館1階 光葉博物館

後援：世田谷まちなか観光交流協会 / 公益財団法人世田谷区産業振興公社



## 開催の目的

本写真展は、創立100周年の機に、学園の誕生および発展の過程に目を向け、創立者をはじめ先人たちが歩んだ道のりに光をあてるとともに、未来へ向けたメッセージを発信することを目的としました。

また同時に、本学在學生や教職員など学内の方々、卒業生や保護者、近隣住民などの学外の方々へ、100年の間学園の存続、成長を支えていただいたことに感謝の意を伝え、これからもより良い信頼関係を築いていきたいという願いを込めて開催しました。



## ごあいさつ

今年は学校法人昭和女子大学創設101年目にあたります。

新しいステージに踏み出すにあたって、改めて学園の歴史を振り返り、本学が歩んできた軌跡を在學生、教職員、卒業生、地域の方と共有する写真展を開催することといたしました。

1920年、文京区小石川で創設された学園が、東中野、上高田を経て、1945年、まだ戦災の余燼の残るここ三軒茶屋に引っ越してきて75年。創立者とそれを支えた同志の方々、教職員の皆様のご尽力によって、昭和女子大学は時代の要請にこたえる教育を行う学園としての歩みを続けてきました。

旧東部第12部隊(近衛野戦重砲兵連隊)跡地の木造の校舎と学内寮は少しずつ整備され、人見記念講堂はじめ立派な施設が次々と建築されました。現在では附属こども園から附属小・中・高校、大学、大学院がすべてこのキャンパスに立地しています。またBST(ブリティッシュ・スクール・イン・トウキョウ昭和)、TUJ(テンブル大学ジャパンキャンパス)など外国の教育機関も招致し、学園のグローバル化が進んで他の大学の追隨を許さないまになっています。

そして、9万人を超える学生たちがこの地で青春の一時期を送り、勉学に励み、力強い婦人として社会に大きく羽ばたいていきました。学生たちは三軒茶屋の地域に溶け込み、三軒茶屋の風物ともなりました。日本経済の成長は街の変化、学生の服装からも見て取れます。

多くの方々の思い出に残る昭和女子大学の変化と成長をこの写真展で実感してください。

2021年5月

学校法人 昭和女子大学  
理事長・総長 坂東 眞理子



## イントロダクション



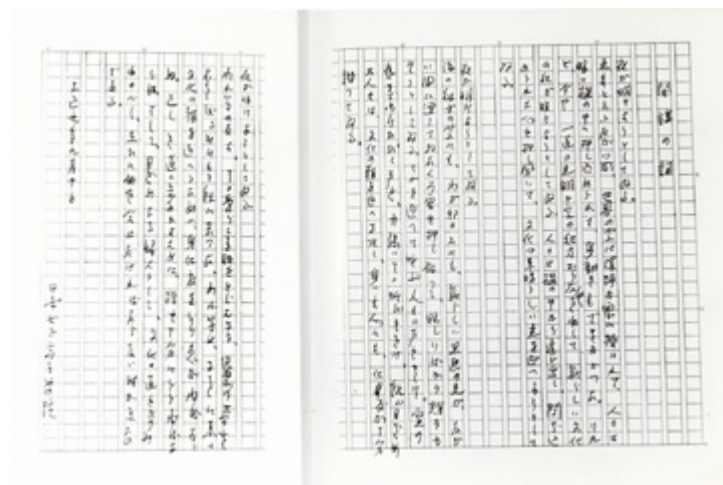
### コーナー紹介

昭和女子大学の前身、日本女子高等学院が誕生する2年前の大正7(1918)年、人見圓吉は人見縁、加治いつ、松本赴、坂本由五郎と毎月1回教育、婦人、文化問題を話しあう「文化懇談会」を興しました。翌年、会を組織化して「日本婦人協会」と改め、“夜が明けようとしてゐる”で始まる「日本婦人協会趣旨書」(のちの「開講の詞」(写真))を配布して公開講演会と研究会を開催、そして、大正9(1920)年、「愛と理解と調和」を旨とし、女性文化の発展のために日本女子高等学院を開きました。「開講の詞」は、人見の「目ざめたる婦人として、正しき婦人として、思慮ある力強き婦人として、文化の道を歩み出す」願いが込められた建学の精神の原典となりました。

創立の大正9年に第1の出発、戦災で総てを焼失し復興開始した昭和20(1945)年に第2の出発、大火災で校舎3分の1を焼失して復興した昭和31(1956)年に第3の出発をしました。そして今では、幼稚部(現こども園)から大学院まで一貫したグローバル教育とキャリア教育を拡充させ、多くの卒業生が国内外で活躍しています。

創立100周年を迎えた今、思い出の昭和女子大学と三軒茶屋を写真、モノ、そして、卒業生の貴重なオーラルヒストリーからひもとき、ネクストステージへと出発いたします。

### 開講の詞

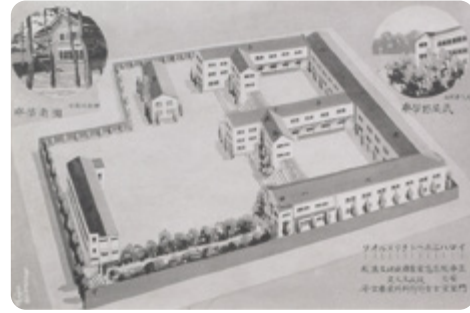


大正9(1920)年 日本女子高等学院創立、「開講の詞」を著す  
(写真は創立50周年を迎えた昭和45(1970)年に改めて人見圓吉がペンで原稿用紙に書き記したもの)

## キャンパスの変遷



大正 11 (1922) 年 日本女子高等学院 東中野正門



昭和 10 (1935) 年 日本女子高等学院 上高田全景



昭和 4 (1929) 年 日本女子高等学院 昭和高等女学校 上高田正門



昭和 24 (1949) 年頃 昭和女子大学 世田谷キャンパスの正門



昭和 28 (1953) 年 昭和女子大学 世田谷全景 玉電走る



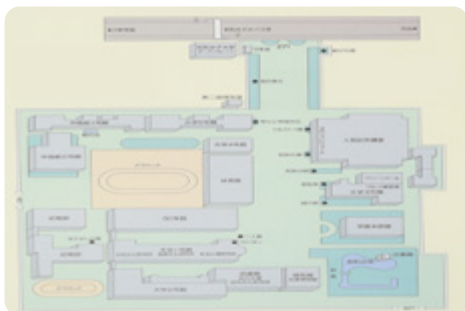
昭和 32 (1957) 年 昭和女子大学 正門



昭和 40 (1965) 年 昭和女子大学 全景



昭和 40 (1965) 年頃 昭和女子大学 正門



平成 13 (2001) 年 昭和女子大学 構内図



平成 18 (2006) 年 昭和女子大学 正門



## 学園を築いた人々



### 創立の父 人見 圓吉 (1883～1974)

明治16(1883)年1月16日岡山県生まれ。明治36(1903)年に早稲田大学高等師範部英語科に在学中に相馬御風(ぎょふう)らと早稲田詩社を結成。筆名に東明を用い詩作に励む。明治42(1909)年に読売新聞社学芸部に入社、山村暮鳥(ぼちょう)らと自由詩社を設立する。

大正7(1918)年、人見緑、加治いつ、松本赴、坂本由五郎らと文化懇談会を興す。日本婦人協会を経て大正9(1920)年日本女子高等学院を創立し「開講の詞」を著す。大正11(1922)年に高等女学部を併設、昭和2(1927)年に財団法人日本女子高等学院理事長となる。大正12(1923)年に関東大震災、昭和20(1945)年に戦災、昭和30(1955)年に大火災に遭うも、学生らの研究活動を途絶えさせまいと、自ら再建、復興の先頭に立ち、女子教育のために尽力した。昭和22(1947)年以降、日本女子専門学校長、昭和中学校長、昭和高等学校長、昭和幼稚園長、昭和小学校長となり、幼稚園から大学までの一貫教育体系を完成する。

昭和26(1951)年に藍綬褒章を受章、昭和40(1965)年勲三等旭日中綬章を受章、昭和49(1974)年2月4日に91歳にて永眠、従四位に叙せられ勲二等瑞宝章を受章する。著書には、『夜の舞踏』『学園の歌』『口語詩の史的研究』などがある。



### 創立の母 人見 緑 (1887～1961)

明治20(1887)年10月10日愛媛県生まれ。明治34(1901)年に日本女子大学校国文科を卒業後も『源氏物語』など国文学研究を続ける。

大正2(1913)年に人見圓吉と結婚。大正7(1918)年人見宅で文化懇談会を開き、日本婦人協会を経て女性文化の向上のため、圓吉らと日本女子高等学院を創立する。大正15(1926)年に校外寮を設置すると自ら寮監長となり深い学識と教育への情熱を捧げ、本学の寮風を築いた。国語国文学、礼法を担当し、学生、生徒に親しまれ、学母、校母と呼ばれる。

昭和36(1961)年2月23日73歳にて永眠。緑陰亭、グリーンホールなど、緑の名にちなんだ施設がある。



### 第2代理事長 人見 楠郎 (1916～2000)

大正5(1916)年10月7日岡山県生まれ。昭和16(1941)年に東京帝国大学文学部を卒業、名古屋帝国大学学生主事となる。日本女子高等学院の校舎、寮舎が昭和20(1945)年4月、5月の空襲により灰燼に帰し、9月に世田谷区の旧陸軍近衛野戦重砲兵第十二連隊跡地に移転後、再建に向けて昭和21(1946)年から昭和高等女学校主事、日本女子専門学校教授に就任、昭和28(1953)年の幼稚園から大学までの一貫教育体系完成に功労する。昭和35(1960)年から昭和幼稚園長、昭和小学校長、昭和中学校長、昭和高等学校長、昭和女子大学長、同短期大学部学長を歴任し、学校法人昭和女子大学理事長を兼任、昭和62(1987)年にボストン昭和女子大学を設立して日本の大学初のグローバル教育の発展に尽力した。

教育功労と私学教育振興の功績により、昭和48(1973)年に藍綬褒章、昭和62(1987)年に勲二等旭日重光章を受章、平成4(1992)年に世田谷区名誉区民として顕彰される。

創立80周年記念式典を見届け、平成12(2000)年11月4日84歳にて永眠。世界を旅し、ベルの蒐集家でもある。著書に『旅路』『昭和教育源流考』『私立学校振興論』などがある。





### 初代院長 校長 加治 悦子 (1866～1946)

慶応2(1866)年新潟県生まれ。いつ子、いつと称呼する。女子独立学校創立者加藤俊子の姪で、同校を卒業後、明治31(1898)年から教職に就く。結婚後しばらく教職を離れるが、夫を亡くした後、教育に携わる。

大正7(1918)年に文化懇談会を発足して人見宅で例会を開き、翌年に日本婦人協会を結成、会長となり加治宅に事務所を置いて公開講演会や研究会を開く。大正9(1920)年に人見圓吉らと私塾日本女子高等学院を創立して講義を開始、同院長、私立学校日本女子高等学院長、昭和高等女学校長を歴任し、学園の発展に尽力した。

昭和21(1946)年7月80歳にて永眠。著作には、雑誌『住宅』(日本婦人協会主事、院長加治悦子)、『建築画報』(院長、教育家加治悦子)に住生活関連の論説、『婦人倶楽部』、日本女子高等学院光葉会発行『女性文化』(院長、校長加治いつ子)に女子教育関連の論説などがある。



### 第2代院長 校長 松平 俊子 (1890～1985)

明治23(1890)年10月6日東京都生まれ。元佐賀藩侯爵鍋島直大の五女。秩父宮妃殿下勢津子の叔母、梨本宮妃殿下伊都子の妹、李鍵公妃殿下誠子(旧名佳子)の母。明治40(1907)年に華族女学校を卒業。翌年に松平胖と結婚し、後に立正婦人会、少年保護婦人会、国際文化婦人協会を設立した。

昭和7(1932)年に日本女子高等学院及び昭和高等女学校学監、翌年に第2代同院長及び同校長に就任以降、財団法人東邦学園理事、日本女子専門学校長、昭和女子大学名誉学監、学校法人昭和高等学校理事、学校法人昭和女子大学理事、同監事を務めて学園の発展に寄与すると共に、大日本茶道協会、大日本航空婦人会、児童憲章愛の会、聖明福祉協会の会長、理事を歴任し、各界の活動に尽力、生涯を通して子女の教育と社会への奉仕に専心した。

永年の子女教育における功績により昭和42(1967)年に勲四等瑞宝章を受章する。昭和60(1985)年5月24日94歳にて永眠。深く仏教に帰依し、著書に『日蓮上人の御言葉のままに』『ミシン裁縫の伴侶』『法華経礼讃』『日蓮主義と女性』『かえで 松平俊子歌集』などがある。



### 創立理事 坂本 由五郎 (1895～1984)

明治28(1895)年7月31日埼玉県生まれ。大正8(1919)年に早稲田大学文学部を卒業後、文化懇談会の発足、日本婦人協会の結成、日本女子高等学院の創立に参画する。英文学教授として教鞭をとって昭和女子大学の礎を築き、教育課程の整備、研究施設の充実などに尽力した。財団法人日本女子高等学院理事、日本女子高等学院英文科長、昭和女子大学短期大学部英文学科長、昭和女子大学文家政学部長、昭和女子大学並びに同短期大学部学監、近代文化研究所長、昭和女子大学並びに同短期大学部学長を務めると共に文部省、日本私立大学協会、日本英学史学会の要職を歴任し、学園と英文学の教育振興に功労した。

多年の女子教育における功績により昭和30(1955)年に藍綬褒章、昭和42(1967)年に勲三等瑞宝章を受章する。昭和59(1984)年9月4日89歳にて永眠。著書には『讚美歌名曲物語』『月々のことば』『花の詩』などがある。



### 創立理事 松本 起 (1882～1948)

明治15(1882)年12月7日神奈川県生まれ。号は雲舟、漁民、漁翁と称する。明治39(1906)年に早稲田大学文学部を卒業。在学中に坪内逍遙に師事し、ポーランド作家シェンキエーヴィチ作『クオ・ヴァディス』をわが国で初めて翻訳、その後もキリスト教文学の発展に貢献した。大正3(1914)年に讀賣新聞社において新聞の「婦人附録」を創設し、婦人部長、評論家として活躍。その後、親交のあった人見圓吉に誘われて教鞭を執り、文化懇談会の発足、日本婦人協会の結成、日本女子高等学院の創立に参与し、人見らと共に宗教を担当した。同学院に高等女学部の付設を発案し、財団法人日本女子高等学院を設立し、理事として学園の隆盛の礎を築いた。神奈川県真鶴町に帰郷してからは、真鶴町外二ヶ村組合長、真鶴町初代町長として自治行政の整備、発展に専心し、風外蕙薫(えくん)の遺跡発見という功績を残した。

昭和23(1948)年9月28日65歳にて永眠。著書に『何處へ往く』(訳)『天路歷程』(訳)『世界三聖傳基督』『奇僧風外の事蹟』『奇僧風外道人』などがある。

## 創設の時代(大正9年～昭和19年)



大正9(1920)年9月人見圓吉らは、日本の女子に高等の学芸を授けるとの意から、「日本女子高等学院」と名づけて校標を掲げました。年々生徒数が増え、大正11(1922)年3月東中野へ移転しました。

大正12(1923)年9月の関東大震災では大きな被害は免れましたが、交友のあった与謝野鉄幹夫妻の文化学院は全焼。圓吉は校舎を貸し出し、午前は日本女子高等学院、午後は文化学院と二部授業を行う状況が2か月間続きました。

当初から全人教育の実践の場として寮生活を重んじ、師弟が寝食をともにして規律に従った生活を送ることで社会性を身に付けさせました。その教育を理解し、入学を希望する者が全国から集まり、増えていき、大正15(1926)年6月、上高田の新校舎が竣工しました。

創立20周年を迎えた昭和15(1940)年に「祝歌」が発表されました。その頃から戦火が強まり、昭和17(1942)年には勤労報国隊が編成され、学生全員が軍事工場で働くようになりました。圓吉は学問を止めないよう日曜にも授業を行い、英語を使わない風潮が広がるなか、後世を予見して英語科の存続を貫きました。





大正9 (1920) 年 間借りした小石川幼稚園に初めて掲げられた校標



大正14 (1925) 年 日本女子高等学院第1回卒業記念



大正13 (1924) 年 校舎新築のための寄付バザー



昭和3 (1928) 年 学院・高女の合同修学旅行 日光中禪寺湖



昭和10 (1935) 年 上高田校舎拡張 空からの風景



昭和17 (1942) 年 報国隊結成式

### その他の展示物

日本女子高等学院第一回卒業生 卒業証書(複製)/「日本女子高等学院学則」/「日本女子高等学院要覧」/『女性文化』/「昭和学報」第9巻 第7号 など

## 再起と前進の時代(昭和20年～昭和30年)



昭和20(1945)年4月の空襲により中野区上高田にあった日本女子高等学院の1300坪の校舎は、一夜にして焼き尽くされました。それでも、近くの本堂などを借用し、授業を継続しました。

その後再建の場を探し求め、昭和20年11月9日世田谷区三宿町(現太子堂)の旧陸軍近衛野戦重砲兵第12連隊跡地に移転しました。教職員と学生たちが工具を手に、自ら教室や寮舎を整備しながら、復興へと踏み出しました。

日本女子高等学院は、昭和21(1946)年に日本女子専門学校となり、昭和24(1949)年新学制により「昭和女子大学」と改めました。昭和22(1947)年に昭和中学校を開校、昭和23(1948)年に昭和高等女学校を昭和高等学校と改め、昭和26(1951)年に幼稚部を、昭和28(1953)年に初等部を開校し、幼稚園から大学までの一貫教育体系が完成しました。同年10月に、完成を祝う記念式典が盛大に開催されました。

その矢先、昭和30(1955)年3月1日午前1時過ぎ、原因不明の大火災が発生し、全校舎の3分の1を焼失、教員1名が犠牲になるという災難に見舞われました。再起不能かと思われましたが、すぐに焼け跡を整備し、前へと進んでいきました。





昭和 20 (1945) 年 太子堂へ校舎移転



昭和 23 (1948) 年 山羊も栄養補給に一役買っていた



昭和 26 (1951) 年 父母も参加してのグラウンド整備



昭和 25 (1950) 年 食堂にて (当時のメニューと値段がわかる)



昭和 28 (1953) 年 10 月 23 日 教育体系完成記念式典 (幼稚園から大学に至る一貫教育体系完成を記念する式典)



昭和 30 (1955) 年 3 月 焼け跡の整理をする学生

### その他の展示物

日本女子専門学校 卒業記念アルバム / 日本女子専門学校卒業生名簿 / 昭和女子大学設置要綱 / 「昭和女子大学 生活の様子と概要について」など

## 成長と発展の時代(昭和31年～昭和64年)



火災からの奇跡的な復興を遂げ、高度経済成長期の時流に乗り、学園は大きく成長していきます。敷地内の建物が数多く新設されたのもこの時代でした。

昭和52(1977)年には、神奈川県足柄上郡大井町に研修学寮「東明学林」を、世田谷区弦巻に校外寮「緑声舎」「ときわ寮(平成元(1989)年3月「若葉寮」と改称)」を開設しました。

昭和55(1980)年には人見記念講堂を竣工。音響設備の素晴らしさに定評があり、現在も学内行事のほか、クラシック・コンサートをはじめジャズ、バレエ、日本古典芸能等の公演を鑑賞する「文化研究講座」を実施する場として活用されています。

さらに、昭和61(1986)年には千葉県館山市に研修学寮「望秀海浜学寮」を、昭和63(1988)年には米国マサチューセッツ州にボストン昭和女子大学を開設し、日本の大学初の海外キャンパスとして注目を集めました。

こうして、昭和女子大学の特色と言える数々の教育プログラムを実践する場が数多く整備され、学園は発展していきました。





昭和 31 (1956) 年頃 現在まで続く伝統 学内学寮での「ともし火の集い」(中高部)



昭和 38 (1963) 年頃 謝恩会会場へ向かうバスの中で



昭和 32 (1957) 年 タイプ室での授業の様子



昭和 52 (1977) 年 竣工直後の東明学林



昭和 55 (1980) 年 竣工直後の人見記念講堂と誇らしげな第2代理事長・人見楠郎先生



昭和 62 (1987) 年頃 現在の 8 号館 (当時の大学院館) 1 階に存在した学食「パーラー・カシオペア」

### その他の展示物

昭和30年代の入学案内 / 東京五輪への協力感謝状 / 東明学林竣工時の全私学新聞と工事概要書 / 望秀海浜学寮の竣工案内とパンフレット など

## 変革の時代(平成元年～平成31年)



20世紀から21世紀への転換期であった平成の時代は、国際化、デジタル化が進むなど、社会を取り巻く環境が急激に変化し、多様化していきました。

本学においても、時代のニーズに適応しながら、学園に集う園児・児童・生徒・学生たちのために、次々と学びの環境が整備されていき、様々な改革が進められました。

大学では、「女子大学から女性大学へ」をキーワードに、学部・学科の改組、改編が進められ、平成元(1989)年には2学部4学科と短期大学部5学科であった編成から、短期大学部を廃止し、現在では6学部14学科へと発展しました。

キャンパスライフは少しずつ様変わりしました。学科対抗の体育祭や伝統の踊り「カルナックの夕」などは行われなくなり、学園祭である昭和祭は、附属校では続いています。大学では「秋桜祭」という名称に生まれ変わりました。また、卒業式では卒業生全員がアカデミックガウンを着用するスタイルとなりました。その一方で、建学の精神が息づく、東明学林、望秀海浜学寮での学寮研修、女性教養講座や文化研究講座などの伝統のプログラムは、進化しながらも、受け継がれています。





平成 2 (1990) 年 創立 70 周年記念につくられた昭和之泉と光葉庵



平成 6 (1994) 年 4 月 11 日 研究館 (現 7 号館)・光葉博物館開館記念式典 (左から 2 人目が人見楠郎第 2 代理事長)



平成初期 (1990 年代) 4 月のキャンパス風景



平成 27 (2015) 年 11 月 19 日 震災復興支援活動として宮城県女川町と共同で開催された「女川ランタン祭」



平成 30 (2018) 年 3 月 卒業式



平成 30 (2018) 年 正門通り リニューアル工事開始

## その他の展示物

学寮研修のしおり 東明学林 8学科分 / 学寮研修のしおり 望秀海浜学寮 9学科分

## ネクストステージへ (令和元年～)



令和2(2020)年に創立100周年を迎えた昭和女子大学は、時代の変化に対応し、思慮ある力強い女性を育てるために、様々な課題にチャレンジしてきました。

長年力を注いできたグローバル教育では、昭和ポストンをはじめ、44の協定校での留学が可能となり、上海交通大学などではダブルディグリー・プログラムも用意されています。

また、令和元(2019)年には米国テンプル大学ジャパンキャンパス(TUJ)を本学キャンパスに迎え、スーパーグローバルキャンパスが誕生しました。

キャリア教育においては、充実したサポート体制により、学生のキャリアデザインを支援し、10年連続全国女子大就職率1位という高い就職実績を残しています。

そして、企業や地域と協働する様々なプロジェクト活動を推進し、学生たちは、教室とは違った体験を積むことで、課題発見・解決する思考力や行動力を養っています。

令和3(2021)年度からは、社会人大学院を開講し、生涯を通じたキャリアアップを支える学習の機会を提供していくほか、学生たちの数理リテラシーの向上に取り組んでいきます。

これからも昭和女子大学は時代の変化を先取りし、社会が必要とする人材を育て、送り出していきます。



【未来とつながる】社会人メンター制度(約300名の社会で活躍する女性メンターがキャリアデザインをサポート)



【社会とつながる】東伊豆町魅力発信プロジェクト(企業や自治体と協働し、課題に挑戦することで社会人基礎力を醸成)



【世界とつながる】2019年8月、テンプル大学ジャパンキャンパス(TUJ)が昭和女子大学世田谷キャンパスの新校舎に移転



昭和学園の未来へ、願いをこめて  
～みんなで咲かせよう 学園への「愛」と「夢」の桜～



コメント抜粋

今回の企画では、来館者に昭和学園の校章にもデザインされている桜の花を形どった付箋を用意して、「昭和学園のどこが好きですか?」「この先、学園をどうしていきたいですか?」という問いについて、それぞれの思いを書いてもらい、桜の木に貼って、満開の花を咲かせてもらいました。

## モノでたどる100年



本学では、写真資料だけでなく、学園の100年の歩みを物語る資料を、それぞれの部署や、昭和学園記念室、図書館、光葉博物館などで大切に保管してきました。それらの資料と同窓生から提供された思い出の品々を織り交ぜて、“モノ”から100年の歴史をたどりました。

大正・昭和初期、昭和20～60年代、平成の3期に分け、それぞれの時代の服装、学園の歴史を物語るモノ、授業や研究の教材として活用されてきたモノなどを集め、展示しました。



### 主な展示物

表札「日本女子高等学院」/ 大正・昭和初期の女学生姿(再現)/ 日本女子専門学校時代の通学服 / 校歌レコード / ポータブル蓄音機(生活美学科等で使用)/ アカデミックガウン / 各年度のキャンパスガイド・ドリーム手帳 ほか



## 寮室再現コーナー



昭和20～40年代の学内寮の写真をもとに、光葉博物館で収蔵している昭和時代のくらしの品々などを用いて、当時の寮室のイメージを再現しました。アイロン台は、実際に「梓寮」で使用されていたものです。

また、昭和52(1977)年から平成26(2014)年まで多くの学生が生活した学外寮「緑声舎」での思い出(伝説?!)について、おもに1990年代の卒業生の証言をもとに描いた『緑声舎あるある』のイラストなども展示しました。

## 緑声舎エピソードコーナー

**緑声舎竣工**  
～昭和女子大学の「寮」の完成形！？昭和52(1977)年～

三軒茶屋駅から電車で2つ目の桜新町駅から徒歩15分  
地上5階 地下1階 寮室172室  
東側A棟 学部学生用 美、藤、園  
西側B棟 短大学生用 橋、桂、桜、楓  
大食堂、浴室、シャワー室、洗濯室、ピアノ室、茶室、図書コーナー、学生会、屋外運動場



**緑声舎あるある その②**  
「公衆電話に長い列」

もちろん携帯電話などない時代、点呼・消灯後、ロビーにある公衆電話には連日長い行列ができる。テレホンカードを手に、自分の番が来るまでぼんぼんしゃべりながら待つ、遠い故郷の家話と話すために、電話口では、様々な地方の方言が飛び交う。



**外泊屋**  
緑声舎あるある その③  
「土曜の夜の印鑑」

土曜の夜は外泊できるが、事前に登録された寮室先のみ可能。事前に外泊先の署名捺印をもらって提出する。多くは「親戚の家」としてだが、「親戚」の署名の印鑑をたくさん持っている学生もいたとか、いないとか。

今週の夜の印鑑、集めようかー！



## 昭和女子大学附属昭和幼稚園（現在の昭和こども園）



昭和 42（1967）年 新園舎引っ越し



こども園開設前の幼稚園（撮影年月日不明）



幼稚園で人見楠郎先生が幻灯を子どもたちに見せている様子（撮影年月日不明）

### その他の展示物

幻灯機およびフィルム / 人見楠郎先生からの手紙 / 人見楠郎先生詩作ノート / 昭和幼稚園のしおり など

## 昭和女子大学附属昭和小学校



昭和 28（1953）年 開校記念植樹の様子



昭和 28（1953）年 入学式にて桜の苗木を授ける初代校長人見圓吉先生



昭和 45（1970）年 初等部の子どもたちに囲まれてほほ笑む 第2代理事長・第2代校長人見楠郎先生

### その他の展示物

餅つき大会で使用されるうすと杵 / オルゴール盤「きよしこの夜」/「昭和女子大学初等部」/「昭和小学校のしおり」 など

## 昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校



昭和 23（1948）年 新学制によって昭和高等学校を昭和高等学校と改めた頃



昭和 26（1951）年 緑先生の礼法授業



昭和 32（1957）年 屋外で行なわれた中高部ピンポン大会の様子



昭和 40（1965）年 中高部 第一回感謝音楽祭



昭和 45（1970）年 中高部1号館屋上朝礼（大学院館建築の頃）

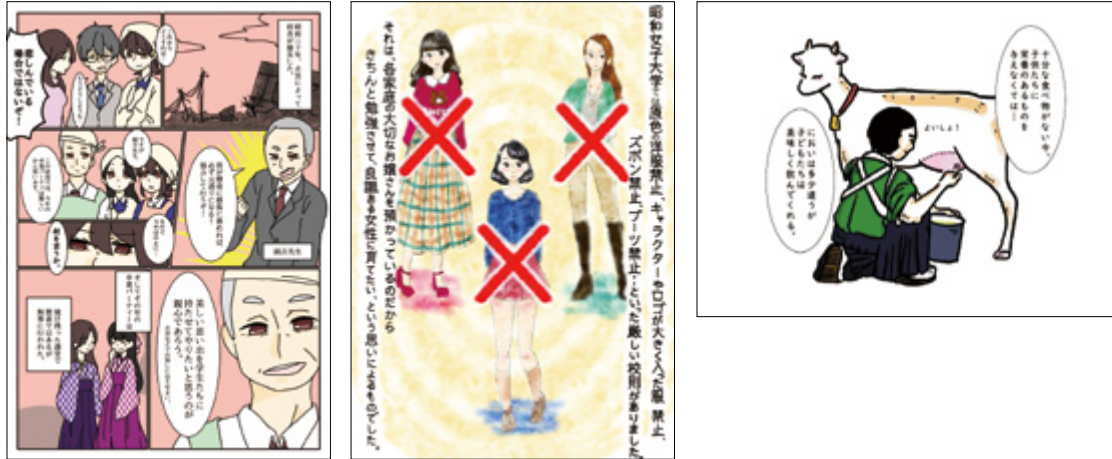
### その他の展示物

校訓三則 / 渾懇魂滾滾 真実の音(板木) / 広瀬淡窓「休道」詩(掛軸) / エントランス標識「中高部」/「昭和学園」/「Le Bêret」/「学園歌集」/「つくしんぼ」 など



## 実録・昭和学園の思い出

学園に残されている様々な書物の中から、先人たちや時代ごとの学生たちの姿が鮮やかに記録されたエピソードをピックアップし、イラストが得意な現役学生3名が作画しました。



### 加藤澄江先生の オーラルヒストリー

加藤澄江先生は、2021年に97歳をむかえる本学の名誉教授であり長きに渡りご尽力いただいた先生です。人見圓吉先生、人見緑先生、人見楠郎先生方と親しくそれぞれのお人柄をご存じで、また思い出・エピソードをお持ちのためお話を伺いました。

昭和の苦難の時代を乗り越え、加藤先生にしか知り得ない時代背景について、思い出に残るエピソードを散りばめました。

#### 〈制度・改革〉

人見圓吉先生は、新しい制度ができるすぐには取り入れず1年間は他大学の様子を見て、問題なければ申請するというスタイルでした。

他に遅れるとは考えず、見極めて、確実にできることを実行していきました。日本女子大に学べと言われ、20代の頃、何度も通ったのを覚えています。

圓吉先生は国文、英文、家政、3つ同時に発展させる。三本柱が大事だと事あるごとに言っていました。

多様性、バランスを重視し偏った見方にならないようにしていたのだと思います。



### 卒業生・丸瀬照子様 のヒストリー

100周年写真展の開催にあたり、同窓生の方々へ写真の提供を呼びかけたところ、昭和16(1941)年日本女子高等学院家政別科ご卒業の丸瀬様から昭和15(1940)年の在学当時の貴重な写真を多数送っていただきました。

同窓会金沢支部の支部会にも積極的に参加され、大変お元気であるとお聞きし、写真の返却も兼ねて、丸瀬様の住む金沢を訪れました。

学年が一つ下の友人大垣智子様、昭和女子大学に通われた丸瀬様の長女太田都様を交えてインタビューをさせていただきました。

96歳(2019年7月インタビュー時)の丸瀬様は、その誕生から現在に至るまで、昭和女子大学の歴史とほぼ重なる時期を過ごされてきました。日本女子高等学院家政別科(1年制)在学時の思い出は、卒業後の今に至っても心にしっかりと刻まれていました。



昭和15年から16年、東京で過ごされた時期は、日本が戦争へと突入していく大きな変革の時代でもありました。そのような中、女性が地方から一人で上京し寮生活を送ることは、本人はもちろん、親御さんにとっても大変勇気のいることだったと思います。「なぜ親御さんがお嬢さんを東京の学校へ行かせたのか」と問いかけたところ、次のようなお話をされました。



友人のお嬢さんが東京の女子大学へ行き、素敵な女性になって戻ってきたことを知ったお父様が、「わが娘も是非東京の女子大学へ」という思いを持ち、東京にいる友人3人に「しっかりと育ててくれる学校はどこか」と聞いたところ、3人とも「日本女子高等学院」と答えたため、いっぺんに決まったとのことでした。

情報もほとんどない時代、同窓生の社会での活躍、「世の光となろう」を実践している姿が伝わっていたからではないでしょうか。

写真展の開催の折、親族を代表して、甥にあたられる方にご高覧いただきました。

## カルナック

卒業生の思い出話には、必ずといっていいほど、「カルナック」という踊りが出てきます。平成10(1998)年の「新入生歓迎体育祭」まで約60年間踊り継がれていました。



ここでは「カルナック」の歴史と踊りの特徴、音源の再現や貴重な集団演技の映像を展示しました。

## 映像コーナー

〈放映映像〉

- ①「学び舎は永遠に」創立70周年記念ビデオ 企画・制作：光葉同窓会
- ②「第45回体育祭大学、高・中・初・幼」駒沢オリンピック公園・陸上競技場にて(1965年11月)
- ③「幼・初・中高運動会・大学体育祭」～初等部祝入学～(1960年)
- ④「昭和学園イメージソング『For Our Dreams』ミュージックビデオ」(2021年)

## 三軒茶屋の変遷

昭和20(1945)年に学園は太子堂へ移転し、以後75年以上にわたり、地域の皆様に支えられてきました。

現在の国道246号に、かつては路面電車の「玉電」(玉川電気鉄道)が走っていた三軒茶屋。現在は首都高速道路の高架が敷かれ、大都市の様相を呈しています。しかし、「三角地帯」に代表されるような、昭和の風情が漂う地域は今も残り、さながら三軒茶屋は、過去と現在が交錯した、唯一無二の個性的な街となりました。



このコーナーでは、そんな三軒茶屋の歴史を振り返りました。

## メイキング



膨大な写真を収集し、一枚一枚スキャンした後、年代別に仕分けする



様々な文献を参考にし、史実とその意味を検証する



展示としてどう見せるか、アイデアを出しあう



展示開始直前、パネルの並べ方を確認し一枚ずつ貼り付ける



内覧会では、理事長・学長はじめ学園に関係の深い方々にお越しいただき、各コーナーごとに担当した職員が説明



「想い出の昭和女子大学・三軒茶屋写真展」制作チーム

### 写真展開幕までのフロー

- |          |   |
|----------|---|
| 2018年 6月 | 初回ミーティング開催、企画会議開始                               |
| 同年       | 写真の収集・スキャン開始                                    |
| 2019年 1月 | 世田谷区郷土資料館を訪問、三軒茶屋の写真提供を依頼                       |
| 2月       | 立教学院展示館を視察                                      |
| 4月       | 光葉同窓会総会にあわせ、本学内にて第1回プレ写真展を開催                    |
| 11月      | 秋桜祭にて第2回プレ写真展を開催                                |
| 2020年 4月 | 新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、会期の1年延長を決定。準備作業も中断を余儀なくされる |
| 10月      | 準備作業を再開   |
| 2021年 4月 | 予定の規模を一部縮小・変更し開催することを決定                         |
| 5月       | 「想い出の昭和女子大学・三軒茶屋写真展」開催                          |

### おわりに

本写真展の開催にあたっては、6名の職員が約3年の年月をかけて準備を行ってきました。

その作業工程はすなわち、本学の建学の精神に今一度立ち返り、先人たちが歩んだ壮大な物語を蘇らせていくことでした。私たちは、幾度も会議を開き、100年という時をどのように区切り、様々な歴史的な事実をどのように意味付けて表現するか、議論を重ねました。

また、展示物として魅力的なものとするために、写真だけではなく学園の歴史を見届けてきた教職員や卒業生など、様々な方から貴重な証言を得ることで、埋没していた秘話を掘り起こし、歴史を多面的に表現することを目指しました。

学内に保管されていた写真を収集し、史実を調査するうえでは、古いアルバムを何冊も開き、文献を隅々まで読み込みました。

その結果、長い歴史を2つの視点で見つめることにしたのです。

一つ目は、「変化」です。

この100年、激変する社会情勢に適応しながら、学園もまた大きく変化し、成長を遂げてきました。時代の気流を敏感に察知し、ダイナミックに、しなやかに変化し続けてきた過程は、学園の歴史そのものと言えます。

二つ目は、「不変」です。

各時代において学園は大胆に変化してきましたが、一方で、創立者・人見圓吉が唱えた建学の精神は、学園独自の教育理念や伝統を育み、今日まで変わらずに受け継がれてきました。

本展示では、ご覧いただく方一人一人に、本学が100年の歩みの中で大切にしてきた想いを感じ取っていただきたいと願って制作しました。そして、その想いこそが、学園を次のステージへと送り出す力になると信じてやみません。

最後になりましたが写真展開催にあたり、多大なるご協力をいただいた卒業生、在学生、現職および元教職員、地域の皆様に心からの感謝を捧げます。

「想い出の昭和女子大学・三軒茶屋写真展」制作チーム



## ミナミスタジオに残る学園の思い出

世田谷区弦巻にある写真館「ミナミスタジオ」は、約60年にわたって昭和女子大学の行事の撮影を続けてきました。創立80周年の際にはミナミスタジオに学園から感謝状を贈っています。

今回、学園の歴史をファイナダー越しに見つめてきた南丞みなみすずむさんに話を聞くとともに、思い出に残る写真をご提供いただきました。



**会津キャンプ村 (1993年頃撮影)**  
南さんはここで会津キャンプ村を訪れた園児や児童、生徒、学生らの集合写真を撮影しました。会津キャンプ村は借しられながら2014年3月に閉鎖されました。



**体育祭 (1994年頃撮影)**  
大学ではかつて学科対抗の体育祭を行っていました。優勝旗をもらったところです。右手に写っているのが人見楠郎第2代理事長です。



**当時の幼稚園の様子 (2002年頃撮影)**  
幼稚園(現在のこども園)の当時の園舎がうかがえます。



**慰霊祭 (2000年頃撮影)**  
現代にも伝統の禊をつなぐ慰霊祭の様子です。



**人見 楠郎 第二代理事長の学園葬(2000年)**  
人見 楠郎 第2代理事長との最後のお別れの場面です。南さんは人見 圓吉 初代理事長・楠郎 二代理事長それぞれの最後のお別れの撮影を行いました。楠郎先生が亡くなった日の夕方、南さんは楠郎先生と会っていました。「また明日来ます」と話した2時間後、電話がかかってきて、亡くなったことを知らされました。



**三学寮研修の様子(左から1985年頃、1993年頃、1996年頃撮影)**  
学生たちは自ら鎌を持ち、土を耕し、苗を植えます。翌年、幼稚園(現在のこども園)の園児が畑で収穫をおこないます。南さんはさまざまな世代の学寮研修に同行し、学園全体とともに協力してつなぐ学びのリレーを見届けてきました。

# 昭和学園の100年

1920

小石川

**大正9年9月10日**

人見圓吉(文学)、人見緑(国語)、加治いつ(家事作法)、松本起(宗教)、坂本由五郎(英語)の有志、私塾「日本女子高等学院」を創立、午後2時頃に「開講の詞」を著す  
小石川幼稚園の一部を借用して校舎とし、文学科、英語科を開設、午後2時から授業

- 日本の女子に高等の学芸を授けるという意で「日本女子高等学院」と名づけ玄関左側に表札を掲げる、監事に人見圓吉、院長に加治いつが就任
- 小石川(現文京区水道4丁目28番)

●

東中野

**大正11年3月20日**

中野幼稚園の敷地内の建物を借用して仮校舎とし、移転(二階建1棟、平屋建1棟68坪)

**4月1日**

私立学校「日本女子高等学院」を設立

高等学部(文学科、英語科、技芸科)、専修部(英語科、技芸科)を開設

附属高等女学部(5年制)開設

校内寮を開設、学寮制の端緒を開く

- 東中野移転(現中野区東中野4丁目2番)、設置者松本起、森川ツキ(中野幼稚園長)
- 初代院長に加治いつ、高等女学部主事に人見圓吉が就任

- 校内寮(現中野区中野6丁目1番)

●

**大正12年5月**

第1回文芸会を開催

**9月1日**

関東大震災

**9月11日**

授業再開

- 震災後約2か月の間、午前は本学院授業とし、午後は与謝野寛・晶子経営の文化学院に校舎を貸す

●

**大正13年4月**

第1回研究発表会(専攻学部・女学部合同)を開催

1925

**大正14年3月22日**

第1回卒業式を挙行

**4月**

高等学部を専攻学部、文学科を国文科、英語科を英文科と改め、専修部廃止

校外寮第1号の葵寮を開設

**6月**

女性文化学会、「女性文化」を発刊

**10月22日**

第1期生多摩河原秋の野遊会

- 寮監長に人見緑が就任、葵寮(中野区東中野上ノ原の借家2棟、3年後に廃止)

●

上高田

**大正15年4月**

校外寮の若葉寮を開設

**6月5日**

上高田に新校舎完成、移転(敷地600坪、木造平屋建3棟250坪)

「校歌」誕生(作詞人見圓吉、作曲者不明)、新校舎落成記念式で発表

**11月1日**

附属幼稚園開設

- 若葉寮(現東京都中野区上高田1丁目2番の二階建借用1棟と平屋建1棟)
- 上高田移転(現中野区上高田1丁目39番)
- 校歌作曲者 音楽担当の権藤圓立の作曲とされる記録もある

●

**昭和元年12月26日**

元号が「昭和」と改められる

**昭和2年7月29日**

財団法人日本女子高等学院を設立

初代理事長に人見圓吉が就任

文部省の認可を受け、専攻学部を本科と改め、家政科を開設

附属高等女学部を昭和高等女学校(5年制)と改める

- 設置者人見圓吉、松本起
- 理事に松本起、加治いつ、坂本由五郎、西堀宗八が就任
- 初代院長・女学校長に加治いつが就任

●

**昭和3年3月10日**

卒業生校友会組織「光葉会」設立し、『女性文化』第1巻第1号を刊行

**4月**

校外寮の若葉寮を開設

**7月**

第1回夏季寮を開始

- 3年1月「光葉会」会名を福永渙が発案

- 若葉寮(現中野区上高田1丁目20番)
- 夏季寮に法性寺(現千葉県館山市北条)を借用、昭和28年以降館山市那古に定着

## 昭和学園の100年

1930	●	<p><b>昭和4年4月</b> 国文科、英文科に研究科を設置、家政科に別科を設置</p>	
	●	<p><b>昭和7年1月10日</b> 学監の制度を設ける</p> <p><b>5月28日</b> 研究科卒業生に中学校・高等女学校・師範学校の国語科・英語科教員無試験検定認可</p> <p><b>7月27日</b> 第1回「夏期公開講座 国文学講座」を開講(～8月2日)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学院学監・女学校学監に松平俊子が就任</li> <li>● 夏期公開講座、昭和12年に夏期講習会、昭和17年に夏季大学と改称し、昭和44年をもって閉講</li> <li>● 桜寮(現中野区上高田1丁目38番)、学監に加治いつが就任</li> <li>● 昭和8年1月 第2代院長・第2代昭和高等女学校長に松平俊子が就任</li> </ul>
1935	●	<p><b>昭和8年1月</b> 校外寮の桜寮を開設</p>	
	●	<p><b>昭和9年4月</b> 日本女子高等学院学則改正</p> <p><b>5月15日</b> 新校舎完成(瓦葺木造二階建、普通教室4室、特別室2室)</p> <p><b>11月</b> 機関誌「學苑」第1号を発行</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「學苑」題字は丸野豊が王羲之の筆跡中から集字</li> </ul>
	●	<p><b>昭和10年5月</b> 校地拡張し、東南角に石段15段のある正門を移す</p> <p><b>10月25日</b> 創立15周年記念式典を開催 鍋島榮子氏から寄せられた祝歌「庭の教へ」の記念碑(秩父石)を建立</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 鍋島榮子氏は松平俊子母</li> </ul>
	●	<p><b>昭和12年3月</b> 「學苑」誌上に「文学遺跡巡礼」発表開始</p>	
1940	●	<p><b>昭和13年</b> 日本女子高等学院要覧「指導と生活」を出す</p> <p><b>4月</b> 校外寮の桜寮を移設</p> <p><b>6月</b> 田園学寮の武蔵野学寮、湘南学寮を開設、研修学寮制の基となる</p> <p><b>10月15日</b> 『文学遺跡巡礼』国学篇第1輯を刊行</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 桜寮(現中野区上高田1丁目141番地)</li> <li>● 武蔵野学寮(現東京都西東京市保谷町)、湘南学寮(現神奈川県中郡二宮町)</li> </ul>
	●	<p><b>昭和14年4月</b> 校外寮の橘寮を開設</p> <p><b>9月1日</b> 第二次世界大戦が始まる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 橘寮(現中野区江古田1丁目2060番)</li> </ul>
	●	<p><b>昭和15年2月11日</b> 学院・女学校において「皇紀二千六百年記念祝典」を開催</p> <p><b>6月</b> 田園学寮の鶴沼学寮、村山学寮を完成、開設</p> <p><b>6月1日</b> 『文学遺跡巡礼』英学篇をまとめ、『英文学の映像』を刊行</p> <p><b>6月25日</b> 『文学遺跡巡礼』国学篇第2輯を刊行</p> <p><b>10月25日</b> 創立20周年記念式典を開催(～27日) 「祝歌」誕生(作詞：人見圓吉、作曲：権藤圓立) 学院の指導精神を表す東郷平八郎揮毫の「誠」の碑を建立</p> <p><b>10月26日</b> 「恩師之墓」を建立</p> <p><b>11月10日</b> 内閣主催「紀元二千六百年式典」開催</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 鶴沼学寮(現神奈川県藤沢市鶴沼海岸)、村山学寮(現東京都東村山市西武園)</li> <li>● 恩師之墓(現中野区上高田1丁目2番3号 青原寺内)</li> </ul>
	●	<p><b>昭和16年2月1日</b> 第1回文化講座を開催</p> <p><b>2月11日</b> 新校舎完成(約500名収容の小講堂、理科教室、裁縫教室、普通教室6室増築、寮舎1棟増築)</p> <p><b>8月18日</b></p>	



	<p>戦局の推移に応じるため、学校報国際、通学班編成、特設防護団を編成し訓練に勤しむ                  高等女学校は自治学友班を組織した  <b>9月</b>                  校外寮の桂寮を開設  <b>10月20日</b>                  『文学遺跡巡礼』国学篇第3輯を刊行  <b>12月8日</b>                  太平洋戦争が始まる                  日本女子高等学院英文科に桜井女塾を合併</p> <p><b>昭和17年6月</b>                  校外寮の葵寮(第2次)を増設</p> <p><b>昭和18年5月</b>                  運動場を新設  <b>6月25日</b>                  学徒勤労令で約300万人の学徒を動員  <b>7月</b>                  「同窓之墓」を建立  <b>7月25日</b>                  『文学遺跡巡礼』国学篇第4輯を刊行</p> <p><b>昭和19年4月10日</b>                  研究科卒業生に中学校・高等女学校家庭科教員無試験検定認可                  時局の緊迫化、交通機関の軍統制強化、食糧調達不能のため、                  田園学寮すべて閉鎖</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・桂寮(中野区桜山町41番地、旧出雲育英塾)</li> <li>・桜井女塾(創立桜井ちか、塾長倉辻フキ)</li> <li>・葵寮(中野区昭通通2丁目5番地)</li> <li>・運動場(桜寮付近・中野区上高田1丁目149・150番地)</li> <li>・同窓之墓(現中野区上高田1丁目2番3号 青原寺内「恩師之墓」東側に位置した)</li> </ul>
<p>1945</p> <p>世田谷</p>	<p><b>昭和20年3月10日</b>                  東京大空襲  <b>4月14日</b>  <b>1時10分頃</b>の空襲により全校舎焼失  <b>5月7日</b>                  葵寮を仮校舎に改造し、授業を再開  <b>5月25日</b>  <b>22時30分～26日1時頃</b>の空襲により寮舎罹災(葵寮、桂寮、橘寮焼失)  <b>6月1日</b>                  萬昌院と境妙寺の本堂を借用して仮教室として授業継続、後に前田高等家政女学校を借用  <b>8月6日</b>                  広島、原爆を投下され罹災  <b>8月9日</b>                  長崎、原爆を投下され罹災  <b>8月15日</b>                  第二次世界大戦終結  <b>11月9日</b>                  世田谷区三宿町(三軒茶屋・太子堂等)の旧陸軍近衛野戦重砲兵第12連隊跡地に移転                  校内寮完成(復興第1号)、学寮制復活  <b>11月19日</b>                  授業開始  <b>12月4日</b>                  女子教育刷新要綱、閣議了解</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・13日23時から空襲警報発令 爆撃を受け、「文学遺跡巡礼」原稿、国学者137名、洋学者128名未発表原稿、研究成果、蔵書を焼失する</li> <li>・萬昌院(中野区上高田2丁目305番地)</li> <li>・三宿町(現世田谷区太子堂1丁目7番)</li> </ul>
	<p><b>昭和21年3月30日</b>                  「財団法人東邦学園」を設立、理事長に人見圓吉が就任  <b>4月1日</b>                  「女子教育刷新要綱」に従い学則を改定                  専門学校令によって「財団法人東邦学園」に日本女子専門学校を開校                  高等部、家制度、朋友班活動を開始、生徒の自主的活動組織「光葉会」発足</p> <p><b>昭和22年3月31日</b>                  教育基本法、学校教育法公布、施行  <b>4月1日</b>                  新学制によって昭和中学校を開校</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本女子高等学院本科の課程を引継ぐ、学監に人見圓吉が就任、初代専門学校長に松平俊子が就任</li> <li>・昭和22年4月 初代中学校長・女学校長に人見圓吉が就任</li> </ul>

## 昭和学園の100年

	<p>校内寮、葵寮、富士寮、敷島寮を開設  <b>5月3日</b>                      日本国憲法施行  <b>6月</b>                      中高部、校内学寮制度開始  <b>12月</b>                      中高部、第1回羽根つき大会開催</p>	
●	<p><b>昭和23年4月1日</b>  <b>新学制によって昭和高等女学校を昭和高等学校と改める</b>  <b>11月3日</b>                      「昭和女子大学図書館」開館(木造瓦葺平屋建総坪数94坪、蔵書2万8,116冊)                      「科学実験室」完成  <b>12月15日</b>                      高等部、1回生が小遣いを持ち寄り世田谷ボロ市で杵と臼を購入し、餅つき開始(22日から)  <b>12月20日</b>                      「大講堂」完成(1,500名収容)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昭和22年12月30日 第2代専門学 校長に人見圓吉が就任</li> <li>昭和23年4月 初代高等学校長に人 見圓吉が就任</li> <li>昭和23年7月 「昭和」の中に含ま れている本旨(百姓昭明 万邦協和) が新時代への脱皮と真の民主主義を 象徴的に包含していることから校名を 「昭和女子大学」と定める</li> </ul>
●	<p><b>昭和24年1月5日</b>                      寮歌制定  <b>1月30日</b>                      「体育館」完成(2月19日開館)  <b>4月1日</b>  <b>新学制によって日本女子専門学校を昭和女子大学と改める</b>                      学芸学部(国文学科、英文学科、被服学科)に加え、別科(国語科、 英語科、家庭科)を開設                      制帽、大学生は黒、高校生は紺、中学生はえんじのベレー帽で 登校始まる  <b>5月3日</b>  <b>昭和女子大学開学式を挙</b>  <b>9月23日</b>                      「先哲之碑」建立  <b>12月15日</b>                      私立学校法公布・施行</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昭和24年4月 初代学長に金子健二 が就任</li> </ul>
1950	<p><b>昭和25年4月1日</b>  <b>昭和女子大学短期大学部を設置し、英語科、家政科を開設</b>                      日本女子高等学院(別科)を改組し、<b>新制高等学校卒の女子に對 する専門教育機関の昭和女子学院を設立</b>                      校訓三則「清き気品 篤き至誠、高き識見」、中等部の制作物に おいて示される  <b>6月</b>                      中高部、生徒新聞「学園」(昭和中学校)・「ル・ベレー」(昭和高等 学校)刊行  <b>9月</b>                      校内寮の橘寮を開設</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昭和25年4月 初代短期大学部学長 に玉井幸助が就任</li> <li>制作物 中等部1年3組「つくしんぼ 1950」</li> </ul>
●	<p><b>昭和26年3月12日</b>  <b>財団法人日本女子高等学院を学校法人昭和高等学校と改め、組織変更する</b>  <b>3月14日</b>  <b>財団法人東邦学園を学校法人昭和女子大学と改め、組織変更する</b>  <b>4月1日</b>                      大学、学芸学部生活科学科を開設                      短期大学部国文科、英文科、家政科に第二部を開設  <b>昭和幼稚園(幼稚部)を開園</b>                      中高部、幼稚園保育実習を開始  <b>5月3日</b>                      人見圓吉、女子教育功労者として藍綬褒章を受章  <b>11月17日</b>                      「新講堂」完成、開館</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昭和26年4月 初代園長に人見圓吉 が就任、幼稚園主事に人見楠郎が 就任</li> </ul>
●	<p><b>昭和27年2月</b>                      電車通り前に青石の門柱と石垣の正門を移設  <b>4月</b>                      短期大学部英語科・英語科第二部を英文科・英文学第二部に改</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>電車通り 現在の国道246号線に路面 電車の玉電(玉川電気鉄道)が渋谷 一子玉川間を走行(昭和44年5 月10日に廃線)</li> </ul>

	<p>める 校内寮の桜寮を開設 <b>12月</b> 中高部、幼稚部と一緒におもちつき会開始</p> <p>● <b>昭和28年4月1日</b> 大学、学芸学部を文家政学部と改め、日本文学科、英米文学科、被服学科、生活科学科と組織変更 中高部、幼稚園庶務制度を開始 校内寮の桂寮を開設 <b>4月17日</b> <b>昭和小学校(初等部)開校</b> <b>幼・小・中・高・大の一貫教育体系を完成する</b> <b>5月</b> 初等部、クッキー・ミルクの軽食を開始 <b>10月23日</b> 一貫教育体系完成記念式典を開催(～25日) <b>12月24日</b> 中高部高校3年生、クリスマス・キャロルを開始、近隣を巡り感謝の讃美歌を合唱</p> <p>● <b>昭和29年3月</b> 初等部、第1回総合学習を実施 <b>4月</b> 校内寮の若葉寮を開設 <b>7月21日</b> 初等部「プール」完成</p>	<p>● 昭和28年4月 初代小学校長に人見圓吉、小学校主事に人見楠郎が就任、校舎に「初等部」の標識を掲げる、児童の白ベレー帽は後にえんじ色に変更</p>
<p>1955</p>	<p><b>昭和30年1月</b> 人見圓吉、『校訂女大學』を刊行 <b>3月1日</b> <b>午前1時過ぎ、大火災で全校舎の3分の1を焼失する</b> <b>4月1日</b> 短期大学部に食物科、被服科、被服科第二部を開設 <b>5月</b> 「初等部」校舎完成、移転(第2次校舎) <b>11月3日</b> 創立35周年記念式典を開催 <b>12月</b> 「中高部」校舎完成(木造二階建)、学習進歩賞・努力賞表彰制度を開始</p>	<p>● 大学、中高部、初等部一部の校舎、寮など2,624坪が火災に遭い、初等部は机・椅子・オルガン・ピアノ等の殆どを持ち出す</p>
	<p>● <b>昭和31年1月20日</b> 近代文化研究所、『近代文学研究叢書』第1巻を刊行 <b>2月</b> 初等部父母会、「しょうわ」創刊 <b>4月</b> 中等部と高等部の生徒会組織を合併し、新聞「ル・ベレー」第1号を発刊 校内寮の梓寮を開設 <b>4月6日</b> 「大学本館」完成 <b>6月5日</b> 「厚生館」完成、学生食堂スクールパーラー開設 <b>6月16日</b> 児童教育研究所を開設 <b>7月</b> 初等部4・5年生、第1回海浜学校を実施 <b>10月</b> 「実験室」増築完成 <b>10月12日</b> <b>復興校舎落成記念式典を開催</b> <b>11月1日</b> 「中高部別館」完成、移転</p>	<p>● 大学本館のドーム(地上25m)から朝夕にチャイムが聴こえる(4月11日から授業開始)</p> <p>● 海浜学校(現千葉県館山市那古)</p>
	<p>● <b>昭和32年</b> 「大学別館/家政館」を増築 <b>2月</b></p>	



## 昭和学園の100年

	<p>中高部、学寮に時刻を打ち出す板木「渾懇魂滾滾 真実の音」を設ける  <b>3月18日</b>            中高部、玄関の植え込みに京都龍安寺茶室前にある「吾唯知足(ワレタダタルコトヲシル)」のつくばい(模造)を据える  <b>4月</b>            校内寮として大学に橘寮、桂寮、高等部に若葉寮(再建)を開設  <b>5月11日</b>            「プール」完成(25m・6コース)  <b>6月23日</b>            大学、文化祭「六月祭」を開催、以降「昭和祭」として中高部も参加  <b>7月15日</b>            中高部・初等部夏季寮開設(千葉県館山市那古)  <b>10月5日</b>            「幼稚部」園舎完成  <b>10月13日</b>            幼稚部・初等部連合運動会開催  <b>11月3日</b>            幼稚部・初等部・中高部・短大・大学総合体育大会開催</p> <p>● <b>昭和33年3月4日</b>  <b>近代文学研究室編『近代文学研究叢書』、第6回菊池寛賞を受賞</b>  <b>4月1日</b>            短期大学部に初等教育科を開設            校内寮の楓寮を開設  <b>5月</b>            校内寮の藤寮、茜寮を開設  <b>7月</b>            初等部6年生、第1回林間学校を実施  <b>10月</b>  <b>近代文庫完成</b>(三階建、文献3万余冊収蔵、11月20日に開館)            講堂を改装して「温考館」完成  <b>11月4日</b>            構内に「二人」像を設置(彫刻家建島覚造作)  <b>12月</b>            初等部、第1回もちつき会を開催</p> <p>● <b>昭和34年1月</b>            初等部、給食を開始  <b>3月</b>            初等部、第1回卒業式挙行  <b>6月7日</b>            校庭で皇太子殿下御成婚奉祝コリイ祭を開催、現明仁上皇陛下と美智子上皇后陛下が来臨</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・渾(いつも)懇(まことの)魂(こころが)滾滾(こんこんとたえずわきいずる)</li> <li>・吾唯知足(吾唯知足「吾れ唯だ足ることを知る」)</li> <li>・大学は昭和46年～50年の間中断、学科研究発表形式の昭和祭は、62年11月をもって終了</li> <li>・体育大会 大学各科上級学年、カナルックの夕べを踊る</li> <li>・菊池寛賞 「その共同研究になる『近代文学研究叢書』54巻刊行への真摯なる態度」に対して受賞</li> <li>・林間学校(奥日光)</li> </ul>
1960	<p>● <b>昭和35年10月11日</b>            「体育館」完成  <b>12月9日</b>            創立40周年記念祭典を開催</p> <p>● <b>昭和36年2月23日</b>            学母人見緑逝去  <b>5月7日</b>            構内に「新体詩祖之碑」(外山正一・矢田部良吉・井上哲次郎)、「河井醉茗碑」を建立  <b>5月23日</b>            「恩師・同窓之墓」を松陰霊園(松陰神社)に改葬移転  <b>7月</b>            「温考館」完成</p> <p>● <b>昭和37年1月29日</b>            校内寮の芙蓉寮、弥生寮完成(2月1日に開設)  <b>2月</b>            学母人見緑の功績と遺徳を偲ぶ「女性文庫」を設立、図書館に設置  <b>4月1日</b>            大学、文家政学部被服学科を生活美学科と改める            「先哲之碑」建立(赤レンガの碑設計浜徳太郎)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和35年4月 人見圓吉が小学校長、幼稚園長を勇退、第2代小学校長、第2代幼稚園長に人見楠郎が就任、創立40周年記念事業として教職員厚生制度を確立</li> <li>・松陰神社(現世田谷区若林4丁目35番1号)</li> <li>・温考館(現学園本部館の位置に建つ)</li> <li>・昭和37年1月8日 第2代学長に玉井幸助が就任</li> <li>・碑の前に池田亀鑑夫人寄贈の棕櫚の鉢植を供える</li> </ul>

<p>1965</p>	<p><b>9月10日</b> 大学、「昭和女子大学学報」を発行</p> <p><b>10月6日</b> 田園学寮の湘南学寮(第2次)を再建、開設</p> <p><b>12月8日</b> 「図書館」完成、開館(現6号館)</p> <p><b>昭和38年4月10日</b> 学校法人昭和女子大学に学校法人昭和高等学校を併合し、名称を昭和女子大学附属昭和高等学校、昭和女子大学附属昭和中学校、昭和女子大学附属昭和小学校、昭和女子大学附属昭和幼稚園、昭和女子大学附属昭和女子学院と改める 短期大学部被服科を家政科と改める</p> <p><b>8月～10月</b> 大学本館玄関にラテン語の「AETERNITATEM COGITA」(永遠を考えよ)、近代文庫に「FIAT LUX」(光あれ)、図書館に「AEQUABILITER ET DILIGENTER」(着実にして勤勉)を掲げる</p> <p><b>昭和39年3月2日</b> 初等部「校歌」制定(作詞:人見楠郎、作曲:井上正)、総合学習発表会で6年生が披露</p> <p><b>3月26日</b> 初等部同窓会「桜友会」発足、「桜友会の歌」発表(作詞:人見楠郎)</p> <p><b>4月</b> 正門完成</p> <p><b>6月</b> 大学の「昭和女子大学学報」を「昭和学報」と改題</p> <p><b>10月10日</b> 東京オリンピック(第18回オリンピック競技大会)開催(~10月24日)</p> <p><b>12月1日</b> 初等部、『昭和っ子の研究』第1巻を刊行</p> <p><b>昭和40年1月</b> 田園学寮の鳴沢寮を開設</p> <p><b>3月</b> 「短期大学部校舎」完成(現5号館・プリティッシュ・スクール・イン・トウキョウ昭和)</p> <p><b>3月31日</b> 初等部、学校給食の実施に関して文部大臣から表彰をされる</p> <p><b>5月</b> 創立45周年記念式典を開催、表彰制度を設ける</p> <p><b>5月4日</b> 人見圓吉、女子教育に尽瘁の功により、勲三等旭日中綬章を受章</p> <p><b>9月15日</b> 地目変更により「世田谷区三宿10番地」から「世田谷区太子堂1丁目7番57号」となる</p> <p><b>12月</b> 「大学別館」完成(現2号館、鉄筋四階建)</p> <p><b>昭和41年1月8日</b> 「中上部」校舎完成(現中上部1号館)</p> <p><b>3月</b> 初等部、旧中上部校舎に移転(第3次校舎)</p> <p><b>4月</b> 中上部、ブレイクタイム開始</p> <p><b>6月1日</b> 『学園歌集』を刊行</p> <p><b>11月</b> 中上部、第1回感謝音楽祭を開催 初等部、軽食(モーニング・ブレイク)開始</p> <p><b>12月</b> 田園学寮のこゆるぎ寮を開設</p> <p><b>昭和42年1月14日</b> 中上部、第1回スクールカラーデーを実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>湘南学寮(神奈川県茅ヶ崎海岸)</li> <li>図書館での閲覧提供は11月から開始</li> <li>ラテン語金文字の発案吉田澄夫、デザイン浜徳太郎、現在も1号館、8号館に掲げている</li> <li>9月26日～10月20日にオリンピック体操選手に体操競技練習場として体育館を提供</li> <li>鳴沢寮(神奈川県大磯)</li> <li>短期大学部校舎屋上に校章を掲げた時計台を設置</li> <li>昭和40年10月 人見圓吉、高等学校長、中学校長を退任して名誉校長に、第4代高等学校長・中学校長に人見楠郎が就任</li> <li>こゆるぎ寮(神奈川県大磯)</li> </ul>
-------------	---	--

## 昭和学園の100年

	<p><b>3月</b> 「研究館・大学院館」完成(現8号館体育館隣の位置)</p> <p><b>9月16日</b> 「幼稚園」園舎完成(第2次園舎)</p> <p>● <b>昭和43年4月</b> 校内寮の椿寮を開設 文家政学部生活科学科に食物学専攻、管理栄養士専攻を開設</p> <p>● <b>昭和44年7月20日</b> 米国アポロ 11号が月面着陸に成功</p> <p><b>10月10日</b> 人見東明(圓吉)、『学園の歌』を刊行</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 園舎内に益子焼モザイク壁画「山の子ども」(五十嵐豊作)、ステンドグラス「美しい村」(大伴二三弥作)を飾る</li> <li>● 昭和44年1月11日 第3代学長・第2代短期大学部学長に河鱈實英が就任</li> </ul>
1970	<p>● <b>昭和45年3月15日</b> 日本万国博覧会開催(大阪)</p> <p><b>4月1日</b> 近代文化研究所を開設 初等部、健康マラソンを「富士登山マラソン」として開始</p> <p><b>5月</b> 創立50周年記念式典を開催 人見圓吉、「開講の詞」を読み上げ録音、これと前後して改めて原稿用紙にペンで書き記す</p> <p>● <b>昭和46年4月</b> 短期大学部国文科を国文学科、英文科を英文学科、家政科を家政学科、食物科を食物学科と改める</p> <p><b>6月</b> 近代文化研究所、『近代日本服装史』『近代日本食物史』を刊行(昭和女子大学創立50周年記念出版)</p> <p><b>11月7日</b> 中高部光葉会、『学園の半世紀』刊行</p> <p>● <b>昭和47年4月</b> 校内寮のときわ寮を開設</p> <p><b>10月5日</b> 人見楠郎、学制100年記念式典において、教育功労により文部大臣から表彰される</p> <p><b>11月</b> 人見東明(圓吉)、『東明詩集』を刊行</p> <p>● <b>昭和48年8月</b> 正門を拡張する</p> <p><b>11月3日</b> 人見楠郎、教育功労により、藍綬褒章を受章</p> <p>● <b>昭和49年2月4日</b> 初代理事長人見圓吉逝去、従四位に叙せられ勲二等瑞宝章を受章 第2代理事長に人見楠郎が就任</p> <p><b>4月1日</b> 大学院に修士課程文学研究科日本文学専攻、英米文学専攻を開設(5月から開講)</p> <p><b>11月</b> 東明学林用地でみかん狩り開始</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 昭和46年3月 学監に坂本由五郎が就任</li> <li>● ときわ寮(現世田谷区弦巻4丁目)</li> <li>● 表彰年 昭和47年、55年、56年、62年、平成4年</li> <li>● 人見楠郎、理事長就任ののち「開講の詞」を凝縮して学園目標を「世の光となろう(Be a Light to the World)」とし、目標実現のための校訓三則「清き気品、篤き至誠、高き識見」を示す</li> <li>● 東明学林(神奈川県足柄上郡大井町山田字道津1868番地)</li> </ul>
1975	<p>● <b>昭和50年5月16日</b> 卒業生・登山家田部井淳子氏、女性としてエベレストに世界初登頂</p> <p>● <b>昭和52年3月12日</b> 校外寮の「緑声舎」と「ときわ寮」完成、開設</p> <p><b>3月24日</b> 研修学寮「東明学林」完成、「ふるさとの碑」(岡山産御影石)と「黎明の碑」(真鶴産石)を建立</p> <p><b>4月1日</b> 中高部、文部省から中高一貫教育研究開発校の指定を受ける 研修学寮「東明学林」を開寮</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 緑声舎 初代寮監長人見緑の名に因み名づける(現世田谷区弦巻5丁目7番1号)、ときわ寮(世田谷区弦巻4丁目24番8号)、平成26年3月閉寮</li> </ul>



	<p>校外寮の緑声舎内に葵寮、藤寮、茜寮、桜寮、橘寮、桂寮及び楓寮を移設  <b>4月7日</b>          初等部鼓笛隊、新玉川線(現田園都市線)開通記念パレードに参加  <b>12月13日</b>          「初等部」校舎完成、ランチルーム設置(四階建第4次校舎)</p> <p>● <b>昭和53年1月</b>          初等部、ランチルームでの合同給食、努力証(オルゴールコイン制)開始  <b>4月1日</b>          大学文家政学部を文学部と家政学部に分離する</p> <p>● <b>昭和54年1月17日</b>          初等部、集団給食栄養改善施設として東京都知事から表彰される          院館にオフィスコンピュータを導入  <b>11月30日</b>          昭和女子大学光葉同窓会『人見東明全集』第1巻を刊行</p> <p>● <b>昭和55年1月</b>          初等部、台湾台北市私立立人小学校と姉妹校締結  <b>2月29日</b>          「昭和女子大学人見記念講堂」完成、第一緞帳「躍動する光」、第二緞帳「光葉の大樹」を設置          創立60周年記念式典を開催  <b>10月</b>          「図書館」を増築し、「近代文庫」を移設(現6号館)</p> <p>● <b>昭和56年4月</b>          人見記念講堂での文化講座を開始  <b>12月</b>          「中高部2号館」完成          「短大3号館・グリーンホール」完成(現3号館)</p> <p>● <b>昭和57年3月10日</b>          「学園本部館」完成</p> <p>● <b>昭和58年4月</b>          中高部、五修生制度を導入、高校3年の1年間に大学・短期大学授業参加学生として学ぶ</p> <p>● <b>昭和59年1月15日</b>          初等部 創立30周年記念式典開催  <b>9月4日</b>          「先哲之碑」(岡山産御影石)を新たに建立  <b>12月8日</b>          「大学1号館」完成(現1号館)          「大学2号館」増築完成(現2号館)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 『人見東明全集』昭和55年4月に第2巻、5月に第3巻・別巻、12月に第4巻、昭和57年3月に第6巻、5月に第5巻の全7巻を刊行</li> <li>● 講堂ロビー正面に日本画家奥田元宋作「秋嶽晚照」、左右にギリシャ女性「思索と創作」(ブロンズ)を配置</li> <li>● 昭和55年4月 第4代学長・第3代短期大学部学長に坂本由五郎が就任</li> <li>● グリーンホール 学母人見緑の名に因み名づける</li> <li>● 昭和57年4月 第5代学長・第4代短期大学部学長に人見楠郎が就任</li> </ul>
<p>1985</p> <p>●</p>	<p><b>昭和60年3月</b>          「短大2号館」完成(現4号館)          構内に7人の妖精ノームが棲み始め、園児・児童・生徒・学生を励ます</p> <p>● <b>昭和61年3月25日</b>  <b>研修学寮「望秀海浜学寮」完成、開寮</b>  <b>4月1日</b>          大学院に修士課程家政学研究科生活造形学専攻、食物栄養学専攻を開設          短期大学部に専攻科(国文学専攻・英文学専攻・家政学専攻・食物学専攻・初等教育学専攻)を開設  <b>5月1日</b>          大学院生活機構研究科に女性文化研究所を設置、  <b>11月</b>          初等部、東京都学生児童発明工夫展都知事賞・学校賞を受賞</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1号館塔屋に学園目標「Be a Light to the World」(世の光となろう)を刻んだ編鐘 Carillon を設置、学園歌メロディーが響きわたる</li> <li>● ノーム(GNOME) 平均年齢250歳、身長40cm程</li> <li>● 望秀海浜学寮(千葉県館山市那古1672-30)</li> <li>● 女性文化研究所に児童教育研究所を編入し、児童教育研究室とする</li> </ul>

## 昭和学園の100年

	<p>● <b>昭和62年3月28日</b> <b>教育法人ボストン昭和女子大学を設立</b> <b>4月1日</b> 短期大学部国文学科を国語国文学科、英文学科を英語英文学科、家政学科を生活文化学科、食物学科を食物科学科、初等教育科を初等教育学科と名称変更 第二部を国語国文学科、英語英文学科、生活文化学科と名称変更 <b>4月29日</b> 人見楠郎、私学教育振興の功績により、勲二等旭日重光章を受章 <b>5月8日</b> 人見楠郎、『昭和教育源流考 大学の巻』を刊行 <b>7月4日</b> 初等部、学力定着のための総合学習が読売教育賞を受章 <b>7月28日</b> <b>研修学寮「会津キャンプ村」完成、開寮</b> <b>10月</b> 学園本部にホストコンピュータ導入 <b>10月1日</b> 人見楠郎、教育振興と文化芸術の向上の功績により、世田谷区から特別文化功労賞を受賞、名誉区民として顕彰される 学生食堂パーラー・カシオペア新装(現学生ホール) <b>10月2日</b> <b>米国マサチューセッツ州にボストン昭和女子大学 Showa Women's Institute Boston を設立</b></p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ボストン昭和(420 Pond Street, Boston, Massachusetts 02130)</li><li>・昭和62年4月 学監に松本昭、山根謹爾が就任</li><li>・短期大学部の廃止 専攻科食物科学専攻、食物科学科(平成23年3月)</li></ul>
	<p>● <b>昭和63年4月3日</b> <b>人見楠郎、ボストン昭和女子大学において「モス・ヒル宣言」をする</b> <b>6月</b> 初等部、6年生卒業制作が日本手工芸文化協会会長賞を受賞 <b>7月7日</b> <b>米国マサチューセッツ州の「昭和女子大学の日」にボストン昭和女子大学開学式を開催</b> <b>7月8日</b> 中高部、中高一貫教育が読売教育賞優秀賞を受賞</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・『昭和教育源流考』 8月に中高の巻上、10月に中高の巻下、12月に幼小の巻の全4巻</li><li>・会津キャンプ村(福島県耶麻郡猪苗代町字五輪原7136番地)閉鎖(平成26年3月)、ブロンズ像「白鳥の湖」は昭和之泉に移設</li></ul>
	<p>● <b>昭和64年1月7日</b> 昭和天皇崩御</p> <p><b>平成元年1月8日</b> 元号が「平成」と改められる</p> <p><b>4月</b> 校外寮、ときわ寮を建替え、若葉寮として開設 <b>4月1日</b> 大学院に博士後期課程文学研究科日本文学専攻、英米文学専攻、生活機構研究科生活機構学専攻を開設 <b>4月15日</b> <b>昭和女子大学オープンカレッジ昭和インターナショナルポート(SHIP)を開設(10月16日開講)</b></p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・パーラー・カシオペア閉鎖(平成13年7月)</li><li>・ボストン昭和女子大学(現 Showa Boston Institute for Language and Culture)の玄関に「モス・ヒル宣言」書と女性像「思索と創作」(ブロンズ)を飾る</li></ul>
1990	<p><b>平成2年5月2日</b> 庭園「昭和之泉」完成 創立70周年記念式典を開催、『昭和女子大学七十年史』を刊行 <b>12月1日</b> 「光葉庵」完成(昭和之泉内)</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・若葉寮(現東京都世田谷区弦巻4丁目)</li><li>・オープンカレッジ(東京都世田谷区太子堂1丁目7番)閉鎖(平成28年3月)</li></ul>
	<p>● <b>平成3年4月</b> 校外寮の椿寮を再開</p>	
	<p>● <b>平成4年1月</b> 昭和幼稚園開園40周年式典を開催 <b>4月1日</b> 大学文学部に心理学科、日本文化史学科を開設 <b>5月1日</b> 国際文化研究所を開設 <b>5月2日</b> 昭和女子大学が上海交通大学と姉妹校締結</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・上海交通大学寄贈の中国古代の楽器「編鐘」(原寸複製)を人見記念講堂ロビーに配置</li></ul>

	<p><b>10月1日</b> 人見楠郎、世田谷区名誉区民として顕彰される</p> <p><b>平成5年4月1日</b> 大学院に修士課程生活機構研究科生活文化研究専攻、生活科学研究専攻を開設</p> <p><b>10月19日</b> 人見楠郎、米国バーモント州セント・マイケルズカレッジから名誉博士号を受ける</p>	
<p>1995</p>	<p><b>平成6年4月1日</b> 大学院生活機構研究科に国際文化研究所を設置 大学家政学部を生活科学部に名称変更</p> <p><b>4月11日</b> 「昭和女子大学研究館」完成、「光葉博物館」開館(現7号館) 卒業生・歌人馬場あき子氏、紫綬褒章を受ける</p> <p><b>平成7年1月17日</b> 阪神・淡路大震災</p> <p><b>2月29日</b> 大学 韓国ソウル女子大学と学生交流協定締結</p> <p><b>3月31日</b> 大学院家政学研究科を廃止し、生活機構研究科に編入</p> <p><b>4月1日</b> 大学院生活機構研究科に生活心理研究所を設置</p> <p><b>11月</b> 大学、秋桜祭を開催</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成6年11月 第5代短期大学部学長に福場博保が就任</li> </ul>
	<p><b>平成8年5月27日</b> 人見楠郎、ソウル女子大学から名誉教育学博士号を受ける</p> <p><b>12月15日</b> 学園に「日本トルストイ協会」を設立</p> <p><b>平成9年12月15日</b> 人見楠郎、『トルストイのアーズブカ』を刊行</p> <p><b>平成10年4月1日</b> 大学生活科学部生活美学科を生活環境学科に名称変更</p> <p><b>平成11年12月20日</b> 「80年館」完成(現8号館 第1期)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本トルストイ協会 会長に人見楠郎が就任</li> </ul>
<p>2000</p>	<p><b>平成12年4月1日</b> 大学、ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学と学問交流協定締結 人見楠郎、ベトナム政府から勲章を受章</p> <p><b>5月1日</b> 建学の精神の象徴「トルストイ像」建立</p> <p><b>10月2日</b> 学生食堂カフェテリア・ソフィア完成(1号館地下1階)</p> <p><b>10月7日</b> 昭和女子大学近代文学研究室、『近代文学研究叢書 別巻人見東明』を刊行(創立80周年記念出版)</p> <p><b>10月12日</b> 学園創立80周年記念祝典を開催</p> <p><b>11月4日</b> 第2代理事長人見楠郎逝去</p> <p><b>11月7日</b> 第3代理事長に人見楷子が就任</p> <p><b>12月4日</b> 図書館、80年館に移転し、開館(現8号館)</p> <p><b>平成13年4月1日</b> 短期大学部専攻科に人間教育学専攻を開設</p> <p><b>11月</b> 昭和幼稚園開園50周年記念式典を開催</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>トルストイ像(ブロンズ)身長2.5m、重さ380kg、100年前に作家ゴーリキーとの写真をモデルに鑄造、像内に歴史的資料を納める</li> <li>ソフィア レフ・トルストイ夫人ソフィアにあやかり名づける</li> <li>平成12年11月7日 第6代学長に福場博保、第5代昭和中学校長・昭和高等学校長に小林美佐子、第3代昭和小学校長に小林美佐子、第3代昭和幼稚園長に渋谷弘子が就任</li> <li>平成13年4月 第4代昭和小学校長に江口雄輔が就任</li> </ul>



## 昭和学園の100年

	<p><b>12月10日</b> 世田谷6大学コンソーシアム基本協定締結</p> <p><b>平成14年2月19日</b> 学園の「使命」MISSION、「将来構想」VISIONを制定</p> <p><b>4月4日</b> 「80年館」完成(現8号館 第2期)</p> <p><b>平成15年4月1日</b> 大学文学部を人間文化学部に変更、日本文学科を日本語日本文学科、英米文学科を英語コミュニケーション学科、日本文化史学科を歴史文化学科と名称変更 大学人間社会学部心理学科、福祉環境学科、現代教養学科を開設 短期大学部国語国文学科第一部と英語英文学科第一部を統合し、人間文化学科第一部に改組 短期大学部国語国文学科第二部と英語英文学科第二部を統合し、人間文化学科第二部に改組 短期大学部専攻科に保育学専攻を開設</p> <p><b>10月</b> 大学院生活機構研究科に近代文化研究所を設置</p> <p><b>11月</b> 昭和女子大学光葉同窓会、『昭和教育源流考 別巻 一人見楠郎先生を偲ぶ』を刊行</p> <p><b>12月5日</b> ISO14001環境宣言認証取得</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>世田谷6大学 国土館大学・駒澤大学・成城大学・東京農業大学・東京都市大学・昭和女子大学</li> <li>平成14年4月 第6代昭和中学校・昭和高等学校長に長谷川勉が就任</li> <li>平成15年4月 第7代学長・第6代短期大学部学長に平井聖</li> <li>人間文化学部心理学科の廃止(平成19年3月)</li> <li>平成15年10月 第7代昭和中学校・昭和高等学校長に渡辺満利子が就任</li> </ul>
	<p><b>平成16年4月</b> 大学に総合教育センターを設置</p> <p><b>5月22日</b> 世田谷区4大学、世田谷区教育委員会と連携し、世田谷eカレッジを開講</p> <p><b>10月23日</b> 新潟県中越地震</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成16年4月 第7代短期大学部学長に島田淳子が就任</li> <li>世田谷6大学 国土館大学・駒澤大学・東京農業大学・昭和女子大学</li> <li>短期大学部の廃止 国語国文学科第一部・第二部、英語英文学科第一部・第二部(平成16年9月)</li> </ul>
2005	<p><b>平成17年2月</b> 昭和女子大学と世田谷区教育委員会との連携に関する基本協定締結</p> <p><b>3月</b> 中高部、文部科学省から教育改革推進事業(環境教育)モデル校指定を受ける</p> <p><b>4月1日</b> 大学院に博士前期課程文学研究科言語教育・コミュニケーション専攻を開設 大学院に修士課程生活機構研究科心理学専攻を開設 大学、昭和ボストン連携BLIP制度を開始 中高部、文部科学省からスーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール指定を受ける</p> <p><b>7月</b> 中高部、文部科学省から国語力向上モデル事業(国語教育推進校)指定を受ける</p> <p><b>7月19日</b> 特定非営利活動法人「NPO 昭和チャイルド&amp;ファミリーセンター」を創設</p> <p><b>10月</b> 中高部、リデュース・リユース・リサイクル推進協議会主催平成17年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰事業において、文部科学大臣賞を受ける</p> <p><b>11月1日</b> NPO昭和チャイルド&amp;ファミリーセンターを設置し、東京都認証保育所A型「昭和ナースリー」、世田谷区委託の子育てひろば「子育てルームSHIP」を開設</p> <p><b>12月1日</b> 株式会社カリヨンを設立 太陽光発電システムを設置(～平成18年、初等部、中高部、新体育館の屋上に設置)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>BLIP Boston Long-Term Intensive Program(長期留学プログラム)</li> </ul>
	<p><b>平成18年3月15日</b> 「昭和学園新体育館」、「杜楠苑」完成、屋内温水プールを設ける</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>杜楠苑、トルストイ「杜」と人見楠郎「楠」に因み名づける</li> </ul>

	<p><b>4月1日</b> 大学院に修士課程生活機構研究科福祉社会研究専攻を開設 大学人間社会学部に初等教育学科を開設 短期大学部人間文化学科第一部と生活文化学科第一部を統合し、文化創造学科第一部に改組 短期大学部人間文化学科第二部と生活文化学科第二部を統合し、文化創造学科第二部に改組 短期大学部初等教育学科を子ども教育学科に名称変更</p> <p><b>6月15日</b> 「就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律」(通称認定こども園法) 公布(10月1日施行、平成30年6月27日改正、平成31年4月1日施行)</p> <p><b>7月31日</b> プリティッシュ・スクール・イン・トウキョウ昭和(各種学校)を設置</p> <p><b>8月28日</b> プリティッシュ・スクール・イン・トウキョウ昭和(BST)開校</p> <p><b>12月15日</b> 改正教育基本法公布・施行</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>短期大学部の廃止 専攻科初等教育学専攻(平成18年3月)、専攻科人間教育学専攻(平成19年3月)、生活文化学科第一部(平成19年9月)、生活文化学科第二部(平成20年3月)、人間文化学科第一部(平成21年3月)、人間文化学科第二部(平成21年9月)、子ども教育学科及び同専攻科保育学専攻(平成22年3月)、文化創造学科第二部(平成22年9月)</li> <li>平成18年8月 初代BST校長にファーリー マイケル グラハムが就任</li> </ul>
●	<p><b>平成19年3月</b> 中高部、ザ・ポストン・ミッションプログラムを開始</p> <p><b>4月1日</b> 大学院に修士課程生活機構研究科環境デザイン研究専攻を開設 短期大学部文化創造学科第一部を文化創造学科に名称変更、昼夜開講する 学生のポータルサイト「UP SHOWA」による情報提供開始</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成19年4月 第8代学長に坂東真理子が就任、第4代昭和幼稚園長に江口雄輔が就任</li> </ul>
●	<p><b>平成20年4月1日</b> 大学院に博士後期課程文学研究科言語教育・コミュニケーション専攻を開設 大学院に修士課程生活機構研究科人間教育学専攻を開設 大学生生活科学部に「研究支援機器センター」を設置 NPO 昭和チャイルド&amp;ファミリーセンターの昭和ナースリー、おでかけルームSHIPに一時預かりの「SHIP DAY NURSERY」を併設し、「子育てステーション世田谷」を開設</p> <p><b>7月17日</b> 大学、女性文化研究賞、女性文化研究奨励賞を創設</p> <p><b>12月8日</b> NPO 昭和チャイルド&amp;ファミリーセンターをNPO昭和に名称変更</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成20年4月 第8代短期大学部学長に坂東真理子、第8代昭和中学校・昭和高等学校長に石原由美子が就任</li> <li>NPO昭和 令和元年11月閉鎖し、事業を社会福祉法人共生会SHOWAに引き継ぐ</li> </ul>
●	<p><b>平成21年4月1日</b> 大学人間文化学部国際学科、生活科学部健康デザイン学科を開設 大学人間社会学部福祉環境学科を福祉社会学部に名称変更 大学生生活科学部生活環境学科を環境デザイン学科、生活科学部生活科学科を管理栄養学科に名称変更 短期大学部文化創造学科の昼夜開講制を昼間部に統合 学生の自治組織の昭和女子大学学友会を発足 学生のWEB履修登録を開始</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成21年8月 第2代BST校長にウィリアムズ デイビッド ブライアンが就任</li> </ul>
2010	<p><b>平成22年5月11日</b> 大学、3つのポリシー(卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針)を示す</p> <p><b>9月</b> 中高部、東京都教育委員会環境教育優良校を受賞</p> <p><b>10月22日</b> 創立90周年記念式典を開催</p> <p><b>12月8日</b> 大学、クラブハウス「コスモス館」完成、開館</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成22年4月 第5代昭和小学校長に小泉清裕が就任</li> </ul>
●	<p><b>平成23年3月11日</b> 東日本大震災</p> <p><b>4月1日</b> 第4代理事長に平尾光司が就任</p> <p><b>5月</b> 中国上海交通大学とダブルディグリー・プログラムに係わる協定を締結</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成23年4月 第9代昭和中学校・昭和高等学校長に大泉章子が就任</li> </ul>

## 昭和学園の100年

	<p><b>11月</b> 中高部、ユネスコ共催国際ユース作文コンテスト学校奨励賞を受賞 昭和幼稚園開園60周年記念式典を挙</p>	
●	<p><b>平成24年8月22日</b> 「子ども・子育て支援法」公布(平成27年4月1日施行) <b>10月</b> 中高部、ユネスコスクールに加盟</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成24年8月 第3代BST校長にジョン・ドナルド・ブライアン・クリスチャンが就任</li> </ul>
●	<p><b>平成25年4月1日</b> 「8号館西棟」完成 大学院の博士後期課程文学研究科日本文学専攻、英米文学専攻、言語教育・コミュニケーション専攻を統合し、文学言語学専攻に改組 大学にグローバルビジネス学部ビジネスデザイン学科を開設 大学に現代ビジネス研究所を設置</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成25年4月 第5代昭和幼稚園園長に小泉清裕が就任</li> </ul>
●	<p><b>8月1日</b> 大学に地域連携センターを設置</p> <p><b>平成26年4月1日</b> 第5代理事長に坂東真理子が就任 中高部、文部科学省からスーパーグローバルハイスクール(SGH)指定を受け、選択制国内外研修旅行開始 大学「学生会館」を開館</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域連携センター閉鎖(平成30年3月)</li> <li>大学院文学研究科博士後期課程日本文学専攻廃止(平成26年3月)</li> </ul>
	<p><b>5月1日</b> <b>昭和女子大学キャリアカレッジを開設</b> 昭和女子大学と世田谷区との連携協力に関する包括協定を締結</p>	
	<p><b>8月</b> 昭和女子大学学術機関リポジトリを開設</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昭和女子大学短期大学部廃止(平成26年8月29日)</li> </ul>
	<p><b>11月1日</b> 大学に現代教育研究所を設置</p>	
2015	<p><b>平成27年4月1日</b> 大学院生活機構研究科に女性健康科学研究所を設置</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学院文学研究科博士後期課程英米文学専攻廃止(平成27年3月)</li> </ul>
	<p><b>8月</b> 「幼稚部」園舎完成(現こども園舎)</p>	
●	<p><b>平成28年4月1日</b> 大学にダイバーシティ推進機構、昭和リエゾンセンターを設置 <b>昭和女子大学附属昭和こども園を開園</b>(幼保連携型認定こども園) 中高部、SHOWA NEXT(本科コース・グローバル留学コース)開始 中高部、子ども読書活動優秀実践校として文部科学大臣賞を受賞</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昭和幼稚園を廃止(平成28年3月)</li> <li>平成28年4月 第9代学長に金子朝子、初代昭和こども園統括園長に小泉清裕、初代園長に越川小枝子が就任</li> <li>昭和リエゾンセンター閉鎖(令和2年9月、現代ビジネス研究所に継承)</li> </ul>
	<p><b>4月14日</b> 熊本地震</p>	
	<p><b>6月</b> 昭和女子大学とテンプル大学ジャパンキャンパスとの単位互換協定締結</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成28年7月 総長に坂東真理子が就任</li> </ul>
●	<p><b>平成29年1月</b> 「9号館」完成 韓国ソウル女子大学校とダブルディグリー・プログラムに係わる協定を締結</p>	
	<p><b>4月1日</b> 大学国際学部英語コミュニケーション学科、国際学科、生活科学部食安全マネジメント学科を開設 中高部、昭和大学(医系総合大学)と特別協定校となる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年4月 第10代昭和中学校・昭和高等学校長に金子朝子が就任</li> </ul>
●	<p><b>平成30年4月1日</b> 大学グローバルビジネス学部会計ファイナンス学科を開設 中高部、SHOWA NEXT(スーパーサイエンスコース)開始</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成30年4月 第6代昭和小学校長に柴田芳明、第2代昭和こども園統括園長に木間英子、第2代園長に北村秀人が就任</li> </ul>
	<p><b>5月</b> 中高部、平成30年度文部科学省国立教育政策研究所より教育課程研究指定校(校種間連携)・実践研究協力校(理科)となる</p>	



2020

**11月8日**

「株式会社駒澤パークインターナショナルスクール」の株式譲渡契約締結

**平成31年4月**

テンブル大学ジャパンキャンパスとダブルディグリー・プログラムに係わる協定を締結

**令和元年5月1日**

元号が「令和」と改められる

中高部、文部科学省から地域と協働による高等学校教育改革推進事業(グローバル型)指定を受ける

**8月**

「10号館」完成(西キャンパス)

米国ペンシルベニア州立テンブル大学ジャパンキャンパスが西キャンパスに移転

**11月6日**

坂東眞理子、米国ペンシルベニア州テンブル大学から名誉博士号を受ける

**12月9日**

社会福祉法人共生会 SHOWAを設立

**令和2年3月11日**

世界保健機関(WHO)、新型コロナウイルスのパンデミックを宣言

**4月1日**

大学環境デザイン学部環境デザイン学科を開設

**4月7日**

内閣総理大臣、新型コロナウイルス対策特別措置として緊急事態宣言を発出

大学、中高部、初等部はオンライン授業体制となる

**6月**

韓国淑明女子大学校とダブルディグリー・プログラムに係わる協定を締結

**9月10日**

昭和女子大学創立100年記念日

**11月9日**

創立100周年記念式典を開催、学園イメージソング「For Our Dreams」(作詞:昭和学園一同、作曲:松本俊明)を記念式典で披露

**令和3年4月1日**

10号館に Showa Digital Square を設置

大学院生活機構研究科福祉社会研究専攻に社会人経営大学院1年制コースを開設

大学生生活科学部を食健康科学部に名称変更

**5月1日**

昭和女子大学創立100周年記念特別講座「昭和女子大学の未来とビジョンを語る大会議」開催

**5月14日**

昭和女子大学創立100周年記念「思い出の昭和女子大学・三軒茶屋写真展～100年分の輝きとともに、ネクストステージへ～」開催(～6月20日)

**6月**

豪州クイーンズランド州立クイーンズランド大学(オーストラリア)とダブルディグリー・プログラムに係わる協定を締結

**7月23日**

東京2020 オリンピック競技大会(第32回オリンピック競技大会)開催(～8月8日)

**8月24日**

東京2020 パラリンピック競技大会開催(～9月5日)

- 令和元年8月 第4代BST校長にタフ クリストファー ポールが就任

- 令和2年4月 第10代学長に小原奈津子、第11代昭和中学校・昭和高等学校校長に真下峯子が就任

- 令和3年4月 第7代昭和小学校長に真下峯子、第3代昭和こども園統括園長に藤崎春代が就任

- 写真展学内限定公開(5月14日～5月31日)・一般公開(6月1日～6月20日)

## 歴代理事長 学長 校長

### 学校法人昭和女子大学

昭和 2(1927)年 7月  
昭和 21(1946)年 3月  
昭和 49(1974)年 2月  
平成 12(2000)年 11月  
平成 23(2011)年 4月  
平成 26(2014)年 4月

### 理事長

初代  
第2代  
第3代  
第4代  
第5代

人見 圓吉(財団法人日本女子高等学院)  
人見 圓吉(財団法人東邦学園)  
人見 楠郎  
人見 楷子  
平尾 光司  
坂東 眞理子(兼 平成28(2016)年7月総長)

### 日本女子高等学院

大正 9(1920)年 9月  
大正 11(1922)年 4月  
昭和 8(1933)年 1月

### 院長

初代  
第2代

加治 悦子(私塾)  
加治 悦子(私立学校)  
松平 俊子

### 昭和高等女学校

昭和 2(1927)年 7月  
昭和 8(1933)年 1月  
昭和 22(1947)年 4月

### 校長

初代  
第2代  
第3代

加治 悦子  
松平 俊子  
人見 圓吉

### 日本女子専門学校

昭和 21(1946)年 4月  
昭和 22(1947)年 12月

### 校長

初代  
第2代

松平 俊子  
人見 圓吉

### 昭和女子大学

昭和 24(1949)年 4月  
昭和 37(1962)年 1月  
昭和 44(1969)年 1月  
昭和 55(1980)年 4月  
昭和 57(1982)年 4月  
平成 12(2000)年 11月  
平成 15(2003)年 4月  
平成 19(2007)年 4月  
平成 28(2016)年 4月  
令和 2(2020)年 4月

### 学長

初代  
第2代  
第3代  
第4代  
第5代  
第6代  
第7代  
第8代  
第9代  
第10代

金子 健二  
玉井 幸助  
河緒 實英  
坂本 由五郎  
人見 楠郎  
福場 博保  
平井 聖  
坂東 眞理子  
金子 朝子  
小原 奈津子

### 昭和女子大学短期大学部

昭和 25(1950)年 4月  
昭和 44(1969)年 1月  
昭和 55(1980)年 4月  
昭和 57(1982)年 4月  
平成 6(1994)年 11月  
平成 15(2003)年 4月  
平成 16(2004)年 4月  
平成 20(2008)年 4月

### 学長

初代  
第2代  
第3代  
第4代  
第5代  
第6代  
第7代  
第8代

玉井 幸助  
河緒 實英  
坂本 由五郎  
人見 楠郎  
福場 博保  
平井 聖  
島田 淳子  
坂東 眞理子

### 昭和女子大学

平成 28(2016)年 7月

### 総長

初代

坂東 眞理子

### 昭和中学校・昭和高等学校

昭和 22(1947)年 4月  
昭和 23(1948)年 4月  
昭和 40(1965)年 10月

### 校長

初代  
第3代  
第4代

人見 圓吉(昭和中学校)  
人見 圓吉(昭和高等学校)  
人見 楠郎

※昭和高等学校は昭和23年4月、新学制により昭和高等女学校が改められたもの。よって、初代・第2代は昭和高等女学校の項参照

平成 12(2000)年 11月  
平成 14(2002)年 4月  
平成 15(2003)年 10月  
平成 20(2008)年 4月  
平成 23(2011)年 4月  
平成 29(2017)年 4月  
令和 2(2020)年 4月

第 5 代  
第 6 代  
第 7 代  
第 8 代  
第 9 代  
第 10 代  
第 11 代

小林 美佐子  
長谷川 勉  
渡辺 満利子  
石原 由美子  
大泉 章子  
金子 朝子  
真下 峯子

### 昭和小学校

昭和 28(1953)年 4月  
昭和 35(1960)年 4月  
平成 12(2000)年 12月  
平成 13(2001)年 4月  
平成 22(2010)年 4月  
平成 30(2018)年 4月  
令和 3(2021)年 4月

### 校長

初代  
第 2 代  
第 3 代  
第 4 代  
第 5 代  
第 6 代  
第 7 代

人見 圓吉  
人見 楠郎  
小林 美佐子  
江口 雄輔  
小泉 清裕  
柴田 芳明  
真下 峯子

### 昭和幼稚園

昭和 26(1951)年 4月  
昭和 35(1960)年 4月  
平成 12(2000)年 11月  
平成 19(2007)年 4月  
平成 25(2013)年 4月

### 園長

初代  
第 2 代  
第 3 代  
第 4 代  
第 5 代

人見 圓吉  
人見 楠郎  
渋谷 弘子  
江口 雄輔  
小泉 清裕

### 昭和こども園

平成 28(2016)年 4月  
平成 28(2016)年 4月  
平成 30(2018)年 4月  
平成 30(2018)年 4月  
令和 3(2021)年 4月

### 統括園長/園長

初代統括園長  
初代園長  
第 2 代統括園長  
第 2 代園長  
第 3 代統括園長

小泉 清裕  
越川 小枝子  
木間 英子  
北村 秀人  
藤崎 春代

### ブリティッシュ・スクール ・イン・トウキョウ昭和

平成 18(2006)年 8月  
平成 21(2009)年 8月  
平成 24(2012)年 8月  
令和元(2019)年 8月

### 校長

初代  
第 2 代  
第 3 代  
第 4 代

ファーリー マイケル グラハム  
ウィリアムズ デイビッド ブライアン  
ジョン ドナルド ブライアン クリスチャン  
タフ クリストファー ポール

### Showa Boston Institute for Language and Culture, Inc

#### 教育法人

#### ボストン昭和女子大学

昭和 63(1988)年 4月  
平成 12(2000)年 11月  
平成 23(2011)年 4月  
平成 26(2014)年 4月

#### 理事長

初代  
第 2 代  
第 3 代  
第 4 代

人見 楠郎 (Showa Women's Institute Boston, Inc.)  
人見 楷子  
平尾 光司  
坂東 眞理子

### Showa Boston Institute

#### ボストン昭和女子大学/

#### 昭和ボストン

昭和 63(1988)年 4月  
平成 4(1994)年 4月  
平成 26(2014)年 4月

#### 学長

初代  
第 2 代  
第 3 代

人見 楠郎  
ロナルド H. プロボスト  
フランク J. シュワルツ



## インタビュー SHOWAISM ～私のストーリー～

昭和女子大学は「世の光となろう」を建学の精神として、1920年の創立からこれまで、約9万人の卒業生を送り出してきました。昭和学園で培った精神“SHOWAISM”を持った卒業生たちの「今」と現在に至るまでのストーリーを掲載しました。

※所属や内容は取材当時のものです。



### 年月を経て気づく昭和の魅力 —今に生きる短大時代

森永乳業株式会社 コーポレート本部  
総務部 リーダー 久保 雅代さん  
株式会社 Z 会ソリューションズ  
コンテンツ営業課 販売管理担当 主任  
野村 みおさん



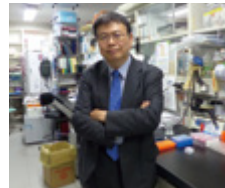
### 昭和女子は第二の故郷 内モンゴルから日本へきて

歌手 / 作家  
Wuyontana さん (ウヨントナ)



### 大学での学びが今につながる — 異文化理解を肌で感じて

A.H. さん



### 研究者である今にリンクする “昭和っ子の研究”

慶應義塾大学 大学院医学研究科委員長  
医学部生理学教室教授  
岡野 栄之さん

[全文掲載▶](#)



### 逆境を乗り越える底力 — 活きた昭和での学び

株式会社陣屋 / 株式会社陣屋コネクト  
代表取締役 女将  
宮崎 知子さん



### 仕事に活きる “インデックス”を構築する4年間

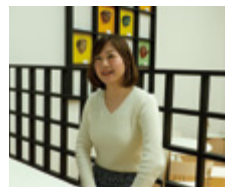
建築家  
有限会社永山祐子建築設計 取締役  
永山 祐子さん

[全文掲載▶](#)



### 「学ぶ」ことを貪欲に — 起点となったボストン留学

外資系コンサルティング会社  
楯 真帆さん



### ダブルディグリー・プログラム、 五修生制度をフル活用して

株式会社みずほフィナンシャルグループ  
外為業務オフィス営業店1チーム  
高納 阿佐美さん



### ジャーナリストとして活躍 情報の最前線と読者をつなぐ

株式会社 毎日新聞社  
採用・研修センター 採用担当副部长  
木村 葉子さん



### 私の人生の分岐点 — 昭和ボストン校への短期留学

株式会社明治  
人事部労務グループ  
田中 hitomiさん



### 挑戦を楽しむ！ — 毎日の新しい出会いと発見を大切に

ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社  
Supply Chain Deliver Inbound  
Transportation HMD JP  
社 愛莉さん



### 諦めず、挑戦することの大切さを学んだ 4年間

三菱電機株式会社  
ビルシステム事業本部 ビルシステム海外事業部  
伏見 百世さん



### 悩みを活力に変えて — 日本の伝統調味料 “みそ”の魅力を発信

実践料理研究家・みそ探訪家  
岩木 みさきさん



### 昭和女子的素養が今に活きる

讀賣テレビ放送株式会社  
事業局 イベント事業部 プロデューサー  
熊谷 有里子さん



企業に勤める管理栄養士として  
一商品開発で知識を活かす

森永乳業株式会社  
営業本部 市乳統括部  
市乳マーケティンググループ  
清水 かおりさん



多彩な留学プログラムに  
参加できる環境に感謝  
今の私につながった留学経験

株式会社 JTB  
前田 明日香さん



貪欲にレベルアップを目指した学生時代  
スキルだけじゃない  
人として信頼される力も養えた大学生活

双日株式会社  
航空産業・交通プロジェクト本部  
エアクラフトアセット事業部 リース事業課  
藤野 真帆さん



やりたいことに全力投球!  
フードコーディネーターの道へと邁進

管理栄養士・フードコーディネーター  
北嶋 佳奈さん



挑戦を続けて自分を高めていく  
「日本という国をよくしたい」

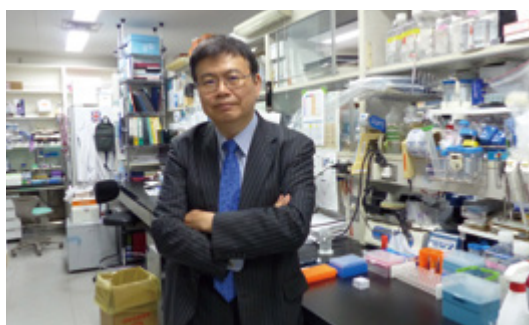
総務省 行政管理局公共サービス改革推進室  
官民競争入札等監理委員会事務局 参事官  
補佐 事業戦略本部  
内藤 諭子さん

## interview

### 研究者である今にリンクする “昭和っ子の研究”

慶應義塾大学 大学院医学研究科委員長  
医学部生理学教室教授  
岡野 栄之さん

昭和女子大学附属昭和小学校  
1971年卒業



### 初等部時代に、体力や学力、 精神面などの“基礎”が鍛えられた

自宅から学校が近く、また母が昭和女子大学家政学部で教鞭をとっていたこともあり、昭和女子大学附属昭和幼稚園と附属昭和小学校（以下、初等部）に通いました。当時の初等部は少数精鋭で1学年30名2クラス。ちなみに、男子は1学年に12名だけでした。1、2年の2年間は、各クラスに男子が6人ずつ。3年生からは、1組は女子だけのクラス、男子12人は全員2組でした。3年生以降はクラス替えがなかったので4年間同じクラスでした。それもあってか、結束力も強く、卒業してから45年以上経ちますが、10年ほど前から定期的に同期会を行っています。

初等部時代のことで思い出されるのは、集団生活や体力づくりに力を入れていたこと。4、5年生では臨海学校、6年生では林間学校に行くなど、約1週間の宿泊学習が頻繁にありました。ちょうど臨海学校へ行っている間に「アポロの月面着陸」の生放送があり、先生も“就寝時間だけど今日は大切な日だからいいよ”と中継を見せてくれたこと覚えています。その宿泊学習では、集団生活での大切さだけでなく体力を鍛えることにも努めていました。もともと、私は“金づち”で10メートルも泳げなかったのですが、臨海学校中の練習で100メートル泳げるようになりましたし、林間学校では関東地方の最高峰である日光白根山の前白根山にも登りました。また、現在も続く初等部の伝統的な活動の一つである「富士登山マラソン」は、私が在籍

していた当時からありました。日々、校庭を走った距離を記録して、昭和女子大学から富士山頂までの往復距離(256km)に到達するまで走りぬく、というもの。社会に出てからの激務をこなすための基礎体力や精神面の強化につながったと思っています。

故・菊地史郎先生は、厳しいながらも大変人情味のある先生でした。1、2年生のときはとても優しい先生という印象でしたが、5、6年生のときはとても厳しかった。私は4年生まで、授業以外の勉強をほとんどしていなかったのですが、菊地先生の厳しくも温かいご指導でしっかりと勉強する習慣をつけることができました。毎日お手製のプリントによる宿題が、かなりの量があったのを記憶しています。そのため、習慣だけでなくおのずと成果も出てくるようになりました。

### 研究者としての礎は、 初等部の「昭和っ子の研究」で培った

初等部の授業で印象に残っているのは、「昭和っ子の研究」。すなわち「総合学習」なのですが、創立以来このカリキュラムがあり、私たちも毎年研究テーマを決めて発表をしていました。今では普通にある「総合学習」ですが、当時はかなり先駆けとして行っていた教育だったと思います。3月に発表会があるのですが、毎年2月くらいからはそのまとめ作業にかなりの時間を費やすほど、力を入れていました。研究内容の大枠は、先生方が、ある程度は決めるのですが、細かい内容は児童たちで決めることができます。仲間と毎週、何時間もかけて模索、立案、調査、実験し、研究内容を模造紙にまとめる。絵やグラフ、表や立体物なども作成し、最終的には大きな講堂のステージで発表するという晴れ舞台を踏んだ記憶があります。3年生は「世田谷区の地理」について、5年生のときは「文学の名作」についてプレゼンテーションした覚えがあります。特に5年生のときには、私がクラス全体の発表のナレーターを担当したの

でとても強く記憶に残っています。

現在、研究者の職に就いている私が、“研究者っておもしろそうだな”と最初に思ったのは幼稚園にあがるころ。科学や歴史、日々の疑問などを子ども向けに分かりやすく説明していたNHK総合テレビの『ものしり博士』という番組を見て、博士、研究者っておもしろそうだなと思いました。母は昭和女子大学の教授で、父方の祖父も天文学者でしたので、“自分の興味のあることを突き詰めていく学者”という職業を知っていて、ごく自然に自分もその様になりたいと思っていました。

その夢は、大学進学時も変わりませんでした。高校時代は、理論物理学に興味があったのですが、慶應義塾大学の学部説明会に行くと、私の目指している学科がないことが判明。しかし医学部の説明会で、開業医や大学勤務医以外にも研究者の道があることを知り医学部進学を考えました。当時読んでいた、ノーベル物理学賞を受賞した学者エルヴィン・シュレーディンガー博士が、物理学者の観点から、遺伝物質の存在を考察した著書『生命とは何か』とリンクしました。医学部に進学して、物理学の観点から生命科学を研究するのもおもしろいだろうな、と思う様になりました。現在では、医学部内でも教育の多様性があり、臨床医ではなく、科学者(研究者)を志望する学生に対応した授



初等部では現在も続く「昭和っ子の研究」。毎年「昭和っ子の研究」として冊子にまとめられ、読売教育賞本賞をはじめ、発明工夫展東京都学校賞、文部科学大臣賞を受賞するなど高い評価を得ています。



業やコースもありますが、当時は100%が必修科目でした。ですから、医師になるための勉強の傍ら、研究者になるための勉強は独学するしかありませんでした。それでも医師国家試験と並行して、生命科学者になるために、分子生物学の実験をしたり、英文論文を読むなどの勉強もしていました。

振り返ってみると、今の仕事と「昭和っ子の研究」の根本は同じだと感じることがあります。どちらも仮説を立て調査や実験を行い、実証し、結果をプレゼンテーションするという過程を経ますから。幼稚園のころに夢見ていた仕事一端を、小学生のときに体験できました。あの当時、「算数のドリルを解くよりも、『昭和っ子研究』のほうがよっぽどおもしろい」と思っていましたし、発表したときの達成感は、ほかでは感じら

れないものでした。間違いなく、あのときのワクワク感が、私を研究者の道へと導いたものと確信しております。

---

岡野 栄之さん(おかの・ひでゆき)

慶應義塾大学 大学院医学研究科委員長 医学部生理学教室教授

1971年 昭和女子大学附属昭和小学校卒業

1983年 慶應義塾大学医学部卒業後、米国 Johns Hopkins 大学医学部研究員、筑波大学基礎医学系分子神経生物学教授、大阪大学医学部教授等を経て、2001年より現職の慶應義塾大学医学部生理学教室教授。以降医学部長、大学院医学研究科委員長を歴任。

主な研究領域は、分子神経生物学、発生生物学、再生医学。

## 仕事に生きる“インデックス”を構築する4年間

建築家  
有限会社永山祐子建築設計 取締役  
永山 祐子さん

生活科学部生活美学科  
(現：環境デザイン学部環境デザイン学科)  
1998年卒業

### わずか15分で 建築家になる決断をしました

生物物理学の研究者である父の背中を見て育ったので、大学も生物学を専攻する予定で勉強をしていました。ところが、高校3年生のある日、“建築家になりたい”という友人の話を聞いて、わたしの人生ががらりと変わってしまったんです。たしか、スクールバスに乗る前にその話を聞き、バスを降りるときには“私も建築家になる”と決意していたように記憶しています。バスに乗っていたのは、わずか15分ほど(笑)。

そのたった15分間のあいだに、亡くなった祖父が建築家を志していたという話を祖母から聞いたこと、祖父母の家には建築にまつわる本や道具があったこと、私が小さいころ自宅の建て直しをするためいろいろなモデルハウスを見に行ったこと、新しい家や部屋に想像を膨らませていたこと、私の希望は通らなかったけれど、想像を巡らせたことが楽しかったこと……そんな記憶や思い出がブワッと甦ったんです。突然



の報告に、両親も驚いていましたが、それでも私の夢を応援してくれました。建築業界で働くなら一級建築士の資格を取って働きたいと思っていたので、そのためにはどの大学に進学するといいかを考えて受験しました。

昭和女子大学 生活科学部 生活美学科は、“卒業と同時に二級建築士の資格を取る(※)”というミッションを達成するための、すばらしいカリキュラムが組まれていたんです。卒業後、2年の実務経験を経て一級建築士の受験資格を得る(※)ためにも、大学でしっかり建築の基礎を学びたいと思い入学しました。

※永山さんが入学した1994年当時の建築士受験資格による。

### 大学在学中は、 “建築業界のなかでの選択肢”を模索

穏やかな性格の同級生が多く、今でも頻繁に連絡を取るなど、とても仲良くしています。ただ、大学の講義はとにかく課題が多く大変だったと記憶しています。徹夜して課題を仕上げたことも1度や2度ではありませんでした(苦笑)。それでも大学の授業だけでは自分の世界が広がらないと思い、授業や課題の合間をぬって、展覧会に行ったり、アートイベントの手伝いをしたり、活躍されているクリエイターの方に話を聞きに行ったりと、なるべく大学以外の世界とも関係を持つことを心掛けていました。大学が都心にあり、イベント会場などへのアクセスがよかったことも、フットワーク軽く行動できた理由ですね。

今振り返ると、学生時代は自分の興味のある分野を探していた気がします。“建築”といっても、就職先もさまざまで、仕事内容も多岐にわたる。たとえば、組織系建築事務所、ゼネコンの設計部、施工、設備、構造、アトリエ系、舞台やドラマなどの美術セットを組む仕事…。そのなかから、自分は何をしたいのか、何に興味を持っているのか、実際に体験して見つけていたんですね。今のようにインターネットが普及している時代ではなかったので、完全に手法はアナログです。舞台や展覧会などで出会った方たちに“なにか手伝えませんか”と頼み込み、お手伝いをさせていただくなど、人づてに情報収集を重ねました。結果として、アーティストの設営や、舞踏家の舞台美術の手伝いなどに積極的に参加していました。

いろいろな場所に顔を出しながら、「自分の興味はどこにあるか」を確かめていく。日々模索するなかで、徐々に“非日常ではなく日常に関わる仕事がしたい”と感じるようになり、大学3年生ぐらいからは日常に関われる建築物をつくる建築事務所やオープンデスクに出向く機会が増えていきました。建築事務所では模型用の柱を切るなど黙々とお手伝いをしていただけでしたが、その事務所の雰囲気を感じることができ、とても貴重な経験でした。

#### “4年制”のアトリエ系デザイン事務所「青木淳建築計画事務所」に就職

多くの現場を見るうち、“アトリエ系”といわれる建築事務所に就職したいと思うようになりました。アトリエ系とは、作家性を持った先生を中心に、作品として建築物をつくり上げる事務所をさします。志望者は多いけれど、募集人数は少ない分野。しかも、大学院を卒業している人や海外で勉強してきた人も志望していて、事務所や先生との相性、求人タイミングの問題もある。実際に就職できても、生活環境や収入面に不満を持つ人も…。プラス面もマイナス面もどちらもあり、かなり狭き門です

が、とにかくおもしろいものをつくりたいというプラスの思いが勝り、志望したんです。昭和女子大学の同級生にはあまり志望者のいない分野でしたので、オープンデスクで知り合った他大学の学生と連絡を取り合い、情報交換しながら就職先を探していました。同時に、建築士を志す人は大学院に進学する人が多かったので、大学院への進学も選択肢に入れていました。

ところが、そんなとき業界でも有名な「青木淳建築計画事務所」から内定をいただけたんです。早く現場を見たいと思っていたので、この縁を大切にしようと就職を決めました。

ただ、実は青木淳建築計画事務所は「スタッフは4年で卒業する」というルールがありました。4年後には退職しなくてはいけないので、4年間はとにかく一生懸命働こうと決め、生活のすべてを仕事につぎ込みました。…数か月間、オフィスの机の下に寝泊りして、朝から晩まで仕事をしていくくらい(苦笑)。青木淳建築計画事務所では実務経験を重ねるなかで基礎や支えとなったのは、大学時代の教科書であり、授業内容でした。大学で4年もの時間をかけて勉強したことが、“インデックス”として私の頭のなかに入っているおかげで、製図や構造の計算などをしているときにわからないことがあっても、「あそこを調べればこの疑問は解けるはず」というような解決策への筋道がすぐにわかったことは助かりましたね。

#### 退職直後、青木淳先生の一言で独立し、「永山祐子建築設計」を設立

退職後、ほかの事務所に行くという選択肢も頭をよぎったのですが、せっかく実務経験を積んだので、まずは一級建築士の資格取得のための時間を作ろうと思いました。…とにかく突っ走った4年間だったので、少しゆっくりしたいという気持ちもありました。でも、いざ腰を据えて勉強しようと思うと、なかなか進まない(苦笑)。そんなとき、事務所主宰の青木淳氏から



“仕事あるけどやる？”と声をかけていただけなんです。それが表参道の美容室のインテリアのお仕事でした。その一言がきっかけで、事務所を設立せざるを得ない状況になりました。いつかは…と思っていた個人事務所設立や起業の決断でしたが、突然、そのチャンスが巡ってきたという感覚でした。

起業直後は、ルイ・ヴィトン京都大丸店をはじめ外装デザイン、インテリアデザインの仕事が多く、一級建築士の資格は必要がありませんでした。けれど、そうも言ってられませんので、勉強を始めました。時間を区切り、仕事と勉強の両立を図りました。受からないとスタッフも困る、事務所のためにも合格しなくてはと、青木淳建築計画事務所退職直後とは違って、必死で勉強し、無事合格しました。

### 昭和女子大学の学生ホールの改装に携わりました

私が設計する建築物の「構造」をお願いしている森部康司先生が、2006年、昭和女子大学の生活科学部環境デザイン学科の准教授に就任しました。以前からお世話になっていた方が、母校の先生になられるというご縁に驚いています。なので、年に数回、打ち合わせのため、昭和女子大学を訪問しています。また、金尾朗先生と杉浦久子先生など、お世話になった先生方が推薦してくださったご縁で、2019年夏、昭和女子大学の「学生ホール」のインテリア改装に携わりました。じつは私が在籍していた時代には、学生ホールの建物自体もなかったもので、自分の学生時代の思い出の場所というわけではありません。ただ、あの建物が建つ前も学生が集う場所ではあったんです。狭いスペースでぎゅうぎゅうになって利用する学生食堂でした。なので、今回、“学生の皆さんが過ごす空間の内装を改装したい”という話をいただき、「学生ホール」へ見学に行ったときの印象は、“広い場所があっていいな”という印象でした。



皆さん、思い思いにお弁当を広げてお話をしていました。ただ同時に、広い場所に席があるだけという、ガランとしていてよりどころがない、という印象も受けました。なので、新しくするにあたっては、思い切って天井を外して天高を上げて、空間を仕切るものを置きました。オープン・キャンパスのメイン会場として、また学生の皆さんの課題を発表、展示する空間としてなど、様々な用途で利用できるようにしたいとお話もありましたので、可動式の仕切りをつけたり、間仕切りに合わせたカラフルな色合いの様々なスケールの家具を並べ、自由に居場所を見つける楽しい雰囲気的空間を作りたいと考えました。

大学は、勉強だけではなく、いろいろな人と出会う場所でもあります。とくに学生ホールは、コミュニケーションの場。講義の空き時間や授業後に、課題について相談しあうなど、自由な時間を有効活用していただけるような場所になっていたら幸いです。

限られた工期や状況でしたが、母校に貢献できる良い機会をいただきました。私自身、ほかの仕事とはまた違う思い入れも生まれた、大切な仕事となりました。

2008年に非常勤講師として、その後、特殊研究講座の講師としてお話をさせていただく機会も得ました。また2019年度には、環境デザイン学科で非常勤講師として講義を行いました。最近では、後輩のインターンシップの受け入れも行なっています。

今後も、仕事上でも良い関係性を築いてい

きたいと思います。今回はインテリアでしたが、夢は、学内の建築物に携わること。母校の建築物にかかわれる機会をいただけるよう、私自身も精進したいと思います。校舎などを改築する機会があれば、ぜひお声がけください。

### 建築学の“インデックス”を構築するための4年間を過ごしてください

大学時代の勉強は、自分なりの“インデックス”を頭のなかに持つためのものだと思います。建築士としてすぐに現場で役に立つことばかりではないかもしれませんが、大学時代に得た知識があれば、たとえ細かいことは忘れていても、どの分野の話かはわかりますよね。建築とはどういうものをいうのか、どういう考え方をしている、建築には何が必要なかを理解し、インデックスとして頭の中にストックされていないと、専門用語の意味もわからないだろうし、どの計算式を使えばいいのかすらわからないはずですから。

私自身、在学中はインターンシップ先でも育てていただきましたが、建築関係の仕事を目指される皆さんには、ぜひ大学内での勉強以外にも目を向けていただきたいですね。他大学でも講義をしていますが、昭和女子大学はとにかく立地がいい。その利点を活かして、たくさんの建築物やアート、興味のあるイベントや建築現場に触れてみてほしいですね。

最近の昭和女子大学は、米国ペンシルベニア州立テンプル大学の日本キャンパスが校内にあるなど、私の在学中とは違う、新しい取り組みを感じます。けれど、立地の良さや穏やかな校風、真面目な学生が多いなど、昭和女子大学らしさは変わらないと思います。とくに、課題に真摯に取り組んでいるという印象。多くの課題をこなすうち、わからないことは調べる、とにかくあきらめずに取り組んでみる、という癖がついているように感じます。大学4年間に努力した経験は、きっと将来の糧になる、そう思っています。

---

永山 祐子さん(ながやま・ゆうこ)

建築家

有限会社永山祐子建築設計 取締役

永山祐子建築設計 HP <http://www.yukonagayama.co.jp/>

1998年 昭和女子大学 生活科学部 生活美学科  
(現：環境デザイン学部 環境デザイン学科)  
卒業

1998~2002年 青木淳建築計画事務所 所属

2002年 永山祐子建築設計 設立

---

主な受賞歴・作品

2004年：中之島新線駅企画デザインコンペ  
優秀賞

2005年：つくば田園都市コンセプト住宅コンペ2  
位

2005年：JCD デザイン賞 2005奨励賞「ル  
イ・ヴィトン京都大丸」

2005年：ロレアル 色と科学と芸術賞 奨励賞  
「Kaleidoscope Real」

2006年：AR Awards Highly commended  
賞「a hill on a house」

2012年：Architectural Record Design  
Vanguard Architects 2012

2014年：日本建築家協会 JIA 新人賞受賞  
「豊島横尾館」

2017年：山梨建築文化賞「女神の森セントラ  
ルガーデン」

2017年：JCD Design Award 銀賞「女神の  
森セントラルガーデン」

2018年：東京都建築賞優秀賞「女神の森セン  
トラルガーデン」

---

講師歴

2006年：東京理科大学非常勤講師

2007年：京都精華大学非常勤講師

2008年：昭和女子大学非常勤講師

2009年：お茶の水女子大学非常勤講師

2010年：名古屋工業大学非常勤講師

2016年：東北大学非常勤講師

2020年：武蔵野美術大学 客員教授就任

## 世界食堂

学生食堂・ソフィアにて国際色豊かなメニューを提供する「世界食堂」プロジェクトを行いました。昭和女子大学の有志学生(グローバル広報チーム)、食健康科学部の「輝け☆健康『美』プロジェクト」メンバー、TUJの有志学生(グローバルフード大使)の3者で協力し、世界各国の伝統料理を「世界食堂風」にアレンジして提供しました。



### 提供メニュー

	2019年10月 <b>アメリカ</b> チーズステーキ風ランチ		チーズステーキ、コールスロー、 フライドポテト、オニオンスープ
	2019年11月 <b>アメリカ</b> Lox and Bagels 風ランチ		サーモンのペーグルサンド、サラダ、 パンブキンスープ、アップルシナモン
	2019年12月 <b>アメリカ</b> クラブケーキランチ		ライ麦パン、クラブケーキ、マック & チーズ、トマトスープ
	2020年1月 <b>韓国</b> キンパ&チゲランチ		キンパ、チヂミ、ゆず茶寒天、チゲ
	2020年2月 <b>ベトナム</b> バインミー風ベトナムランチ		バインミー、バターコーン炒め、キャ ベツスープ、コーヒーゼリー
	2020年10月 <b>ロシア</b> ロシアのビーフストロガノフランチ		ビーフストロガノフ、オリヴィエサラ ダ、ロシア風ザワークラウト
	2020年11月 <b>ドイツ</b> マウルタッシェ風ランチ ~ 西欧ドイツ料理 ~		マウルタッシェ、ヴィネグレットソース のサラダ、ひよこ豆の煮物
	2020年12月 <b>スウェーデン</b> スウェーデン料理ランチ		ヤムソンの誘惑、鮭のトマト煮、きの このニンニク炒め、ソッケルカーカ
	2021年1月 <b>スペイン</b> スペイン家庭料理ランチ		パエリア、トルティージャ、チャンピ ニョネス、人参とチーズのサラダ
	2021年6月 <b>イタリア</b> イタリアランチ		ミートソーススパゲティ、アクアパッ ツァ、バーニャカウダ、パンナコッタ
	2021年7月 <b>ブラジル</b> ブラジルランチ		ブラジリアンライス、フェイジョン、 タブレ、プリガディオ



## 創立100周年記念オリジナルLINEスタンプ

創立100周年を祝うとともに学園を身近に感じてもらうことを目的とし、昭和女子大学の在学生、教職員の皆さんから応募いただいた作品の中から、昭和女子大学オリジナル LINE スタンプを制作・販売いたしました。

**募集期間：**2018年7月18日～2018年9月30日

**応募資格：**昭和女子大学在学生、学校法人昭和女子大学教職員  
(いずれもグループ応募可能)

**結果発表：**2018年11月2日

**応募数：**14作品

**受賞者：**最優秀賞1名 入選3名



**作者** 石田 理絵 (人間社会学部 福祉社会学科 1年)  
**タイトル** 昭和女子大学 100周年記念スタンプ



今回は100周年を記念し、親しみやすくみんなに「使いたい!」と思ってもらえるようなスタンプを作りたいと考え応募しました。

このスタンプは、普段大学で生活している中で身近に感じるものをテーマにしています。私のお気に入り学食と理事長「夢を実現する7つの力」のスタンプで、学食は量をもっと増やしてほしい!という思いを込めて、理事長・総長は可愛く似せて描けたので私自身も使いたいな、と思う出来になりました。





**作者** 富田 美晴 (人間文化学部日本語日本文学科 1 年)

**タイトル** ばんまり理事長スタンプ

小柄ながらもバイタリティーあふれる坂東先生の世の中の女性や生徒に対してエールを送っている姿をスタンプに表現しました。スタンプを送られた人が元気になるような明るい色づかいに仕上げました。



**作者** 佐々木 里奈 (グローバルビジネス学部ビジネスデザイン学科 3 年)

**タイトル** SHOWA WOMEN'S あるある

昭和生なら、とてもよくわかる~と思うような内容をスタンプとしてデザインしました。坂東眞理子理事長の言葉をお借りし、また夢を実現する7つの力の1つでもある”グローバルカスタンプ”。スタンプにすることで、日常から学生も意識できるよう作りました。昭和女子大学の7不思議の1つともいわれ、また毎日どこにあるか場所も変わるといわれている妖精は独特で面白いと思ったこと、学生間のライン内容で”今どこいる?”と、場所を問うことも多いことからこの妖精と絡めデザインを考えました。昭和女子学生は、UPSHOWA で課題提出したり、掲示板に情報が流れることも多いことから、確認を促せるようUPSHOWA スタンプがあれば友達に連絡するのも楽だと思い作りました。どのスタンプも、つい、使いたくなるようなポップさと簡潔で日常でも使いやすいようなスタンプをイメージし、仕上げました。



**作者** 手塚 瞳 (学園本部広報部 職員)

**タイトル** 100周年を祝してトルストイ像が絶対取らなさそうなポーズを取ルストイ

昭和女子大学の歴史は、詩人人見圓吉が、トルストイの目指す「愛と理解と調和」に教育の理想を見出し女子教育の道を歩んだことから始まります。そして銅像に姿を変えたトルストイは人見記念講堂の前で学生たちを見守り続けています。100周年を迎える今日、トルストイは坂東眞理子現理事長・総長と肩を並べLINEスタンプとなり、学生同士のさらなる愛と理解と調和にゆるく寄与します。

## 創立100周年記念グッズ

創立100周年を機に愛校心や一体感を醸成し、社会に対して学園の新たなバリューを発信するため、記念グッズを制作しました。教職員証ケースは教職員向けに配布し継続して使用しています。学外向けにはボールペンやふるしき、菓子などを制作しイベントや贈答用として活用しました。



教職員証ケース



ユメミルミズ



ボールペン



ふるしき



ふるしき



贈答用菓子



贈答用菓子



贈答用菓子



## Instagram

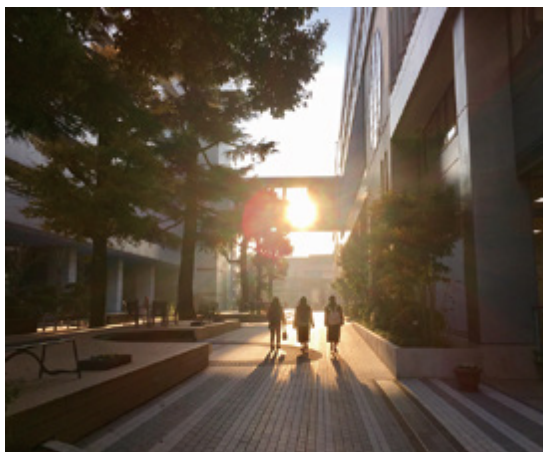
フォトコンテストおよび Instagram を利用した学生による広報活動を実施しました。コンテストを通して、昭和女子大学の新たな魅力を再発見することができました。

※所属・学年は応募当時のものです。

### 第1回フォトコンテスト：

テーマ『キャンパスでみつけた小さな秋・冬』

募集期間：2018年10月9日(火) ～ 2019年2月7日(木)



優秀賞

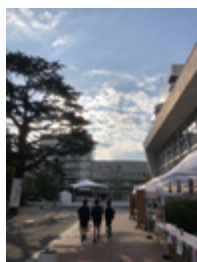
#### 帰路

秋の夕暮れを感じる黄色い光とこれから紅くなるであろう木々の姿

撮影場所：プロムナード

学科：初等教育学科

2年 池田 智美



#### 学園祭の朝

学園祭が始まる前の風景

撮影場所：旧体育館前

学科：人間教育学専攻

2年 Zeng Zhuo



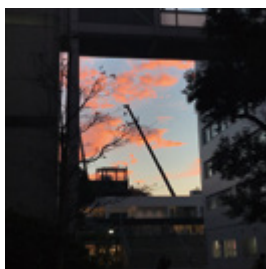
#### 黄色い雨

昭和の泉にいたら、ざあっと雨の音がしました。驚いて正面を見たら、黄色の葉が落ちる音でした。

撮影場所：昭和の泉

学科：日本語日本文学科

2年 金澤 稀愛



#### 校舎内美術館

校舎が大きな額縁で、その中に夕暮れが描かれているように見えました。木の葉もほとんどが落ちていて、もう秋なんだなあと感じた1枚です。

撮影場所：プロムナードから

学科：環境デザイン学科

2年 昆野 萌



#### Between Wings

私たちの寮 (Wing) の間の紅葉が、秋晴れの下に凛と佇んでいました。

撮影場所：昭和ボストン

学科：英語コミュニケーション学科

2年 Cookies



#### 雪を纏う

雪が降ると人は厚着をしますが、昭和の泉も真新しいふわふわの雪を纏って厚着をしていました。

撮影場所：昭和の泉

学科：日本語日本文学科

2年 金澤 稀愛



#### 秋色と蒼鷺

最初は中央のアオサギを撮る予定でした。けれど、秋の景色が綺麗すぎたので、全体像に変更しました。

撮影場所：昭和の泉

学科：日本語日本文学科

2年 金澤 稀愛



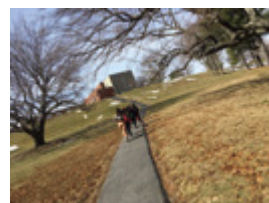
#### 雪に包まれた昭和女子

去年の冬、1号館と8号館の間の渡り廊下から撮影しました。

撮影場所：渡り廊下から

学科：心理学科

2年 すみれ



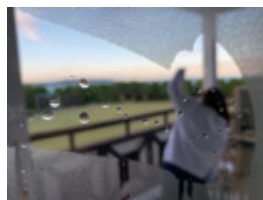
#### 冬の香り、お散歩日和

まだ雪が残る中、帰路へ発つ前、名残惜しさをかみしめつつ、皆でお散歩したなつかしい写真

撮影場所：昭和ボストン

学科：初等教育学科

3年 秋元 凛



#### 健康的な朝

望秀海浜学寮にて、朝ラジオ体操の音楽が流れてたので友達が朝焼けと共に身体を動かしているのを撮りました。

撮影場所：望秀海浜学寮

学科：環境デザイン学科

3年 山崎 理莉子



#### オレンジ

冬茜とこども園のひかりは、心温まる優しい景色

撮影場所：渡り廊下から

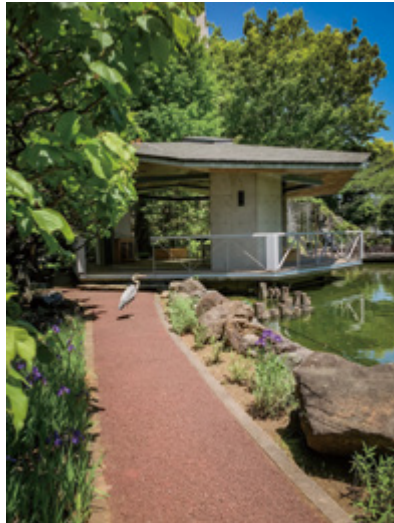
学科：環境デザイン学科

2年 To Hoi Wai

第2回フォトコンテスト：

テーマ『昭和学園に春・夏がきた!』

募集期間：2019年6月3日(月)～2019年10月7日(月)



道

真っ直ぐな眼差しに凜とした佇まい、先を見据えるこの姿が強く生きた過去とこれからの陰しくも美しい未来をまるで映し出している。

撮影場所：昭和の泉

学科：国際学科

2年 MEI MIYAMOTO



期待、のせて

暑さも増した6月にプロムナードでシャボン玉を楽しむ友人を撮影した1枚。

撮影場所：プロムナード

学科：日本語日本文学科

2年 瀨本 真衣子

夏の暑さと勝負

学校の部活の夏の強化練習中に陸上部に撮影の許可を得て撮影をしました。躍動感が出るように工夫し撮影をしました。

撮影場所：グラウンド

所属：中高部 高等学校

2年 伊藤 友梨香



淑女の花園

穏やかな春の訪れと共に、キャンパス内に咲き誇る薔薇の花を、乙女である女子大生に掛け合わせました。

撮影場所：1号館前

学科：英語コミュニケーション学科

2年 唐牛 茜



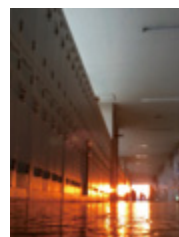
明日

アヤメが希望、信頼、友情、知恵を象徴するように、昭和女子大学で爛爛たる明日を私たちの手で創っていく。

撮影場所：昭和の泉

学科：国際学科

2年 MEI MIYAMOTO



一瞬の夕日

授業後に教室から出ると、たっぷりの夕日が差し込み、燦々と廊下を照らして、日が長くなったと感じた一枚。

撮影場所：1号館廊下

学科：環境デザイン学科

3年 村上 わこ



学寮の夏

望秀海浜学寮での3枚。同じクラスのみんなと風船を膨らませて撮りました。今流行りのインスタ映えを狙った大学の研修とは思えない写真です。毎年学寮研修と聞くと少し憂鬱になる私たちが見つけた学寮の楽しみ方です。

撮影場所：望秀海浜学寮

学科：福祉社会学科

2年 石田 理絵 /

小深田 悠



光のなかのこどもたち

夏休み直前、午後の授業を終えて外に出たらお揃いの帽子を被ったこどもたちが遊んでいました。

撮影場所：こども園大階段前

学科：現代教養学科

2年 nayu\_



日を向く花

四季の移り変わりとともに植え替えられる花を、トルストイ像と共に写真に収めました。

撮影場所：記念講堂前

学科：心理学科

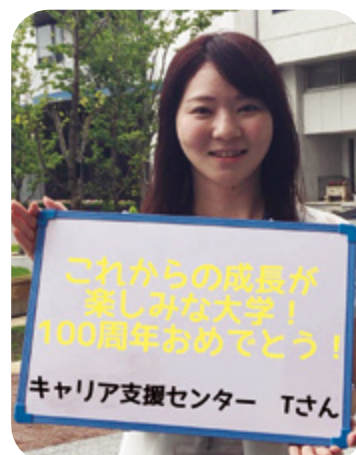
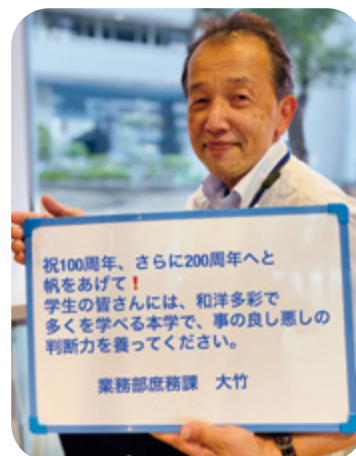
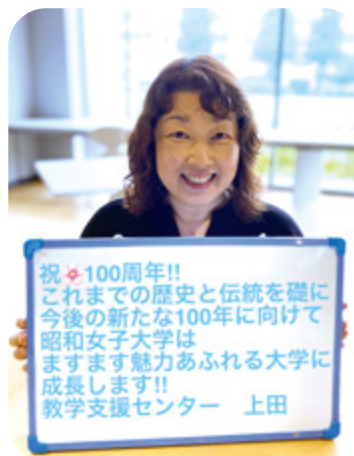
4年 井川 恵子



## Instagram メッセージ写真

創立100周年を迎えるにあたり、学生や教職員からメッセージを集めました。

※所属・学年は応募当時のものです。





## 広報活動

創立100周年記念事業を学内外へ周知するため、広報チームの職員がホームページ制作やメールマガジンの配信を行いました。

### 1. ホームページ制作・掲示板設置

学外向けホームページ



学内向けホームページ



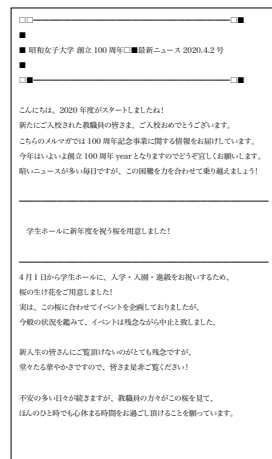
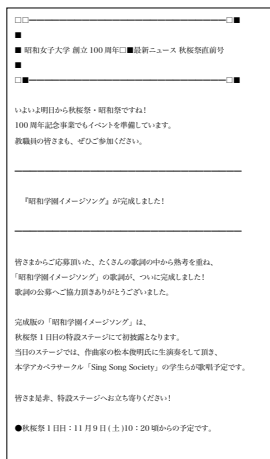
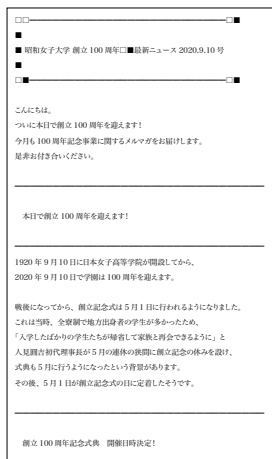
掲示板（8号館学生ホールに設置しました）



### 2. メールマガジン

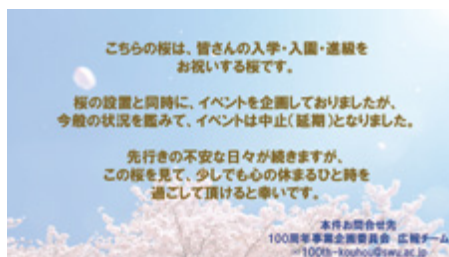
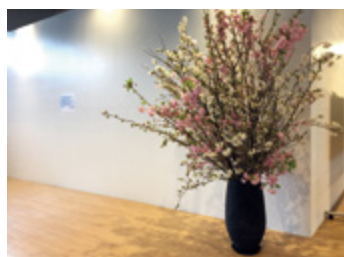
周年事業やイベント等を告知するため、教職員向けに月1回程度メールマガジンを配信しました。

2017年度～2021年度まで約3年半で合計38通のメールマガジンを配信しました。



### 3. 桜イベント

創立100周年を迎える2020年4月、「みんなで咲かせよう100周年の桜」という学生・教職員参加型のイベントを企画していましたが、新型コロナウイルスの影響でやむを得ずイベントを中止しました。イベントは中止となりましたが、8号館学生ホールに桜を飾り、節目の年の入園・入学・進級をお祝いしました。



## 創立 100 周年事業に携わった教職員・学生

### 100 周年委員会

委員長 坂東 真理子 (理事長・総長)  
副委員長 小原 奈津子 (学長)  
委員 金子 朝子 (副理事長)  
委員 吉田 昌志 (副学長)  
オブザーバー 阿部 博 (学園本部特任)  
幹事 福住 真由美・武藤 空男 (総務部長)

### 100 周年事業企画委員会

池田 恵 (教育支援課)  
大久保 英男 (現代ビジネス研究所)  
下村 良幸 (情報メディア課)  
西田 昌平 (総長・学長室)  
長谷雄 翠 (教育支援課)  
藤井 俊樹 (学生支援課)  
三宅 彩香 (財務部)  
**管理・アドバイザー**  
保坂 邦夫 (理事長補佐)・岡村 伸 (広報部)

### シンボルマーク、グッズ

池田 恵 (教育支援課)  
三宅 彩香 (財務部)  
梅沢 美紀 (広報部)  
岡部 友子 (総務部)

### シンボルマーク協力メンバー

金尾 朗 (環境デザイン学部 学部長)  
金子 友美 (環境デザイン学科)  
桃園 靖子 (環境デザイン学科)  
橘 倫央 (環境デザイン学科)

### インタビュー

長谷雄 翠 (教育支援課)  
池田 恵 (教育支援課)  
岡部 光明 (キャリア支援センター)  
前田 由紀 (研究支援課)

### 写真展

大久保 英男 (現代ビジネス研究所)  
有路 素子 (光葉博物館)  
轡田 葉穂子 (教育支援課)  
野口 淳 (学生支援課)  
前之園 香世子 (図書館)  
和田 宏美 (初等部事務室)

### LINE スタンプ

藤井 俊樹 (学生支援課)  
伊藤 春奈 (環境デザイン学科)  
津田 英 (アドミッションセンター)  
藤田 依里 (学生支援課)  
森本 力 (教育支援課)

### Instagram

長谷雄 翠 (教育支援課)  
石橋 由美子 (アドミッションセンター)  
岡 佳那美 (環境デザイン学科)  
金森 理恵 (アドミッションセンター)  
徳田 桃理 (キャリア支援センター)  
本橋 芳徳 (グローバルビジネス学部事務室)

### 学園イメージソング

大久保 英男 (現代ビジネス研究所)  
伊藤 美和子 (日本語日本文学科)  
手塚 瞳 (広報部)  
中田 亮太郎 (情報メディア課)  
西田 昌平 (総長・学長室)  
渡部 博文 (財務部)

### 学生メンバー

小幡 美仁 (管理栄養学科)  
坂本 明沙美 (歴史文化学科)  
柴木 七海 (健康デザイン学科)  
鈴木 里奈 (日本語日本文学科)  
関根 幸歩 (心理学科)  
高橋 伊織 (日本語日本文学科)  
蓮見 彩香 (日本語日本文学科)  
長谷川 理穂 (会計ファイナンス学科)  
山田 愛華 (ビジネスデザイン学科)  
山田 凧紗 (心理学科)  
山本 遥子 (歴史文化学科)  
吉野 実紗 (現代教養学科)

### 世界食堂

藤井 俊樹 (学生支援課)  
池田 恵 (教育支援課)  
岩崎 有里 (学生支援課)  
小林 恭介 (キャリア支援センター)  
佐藤 駿 (研究支援課)  
関戸 勇人 (国際交流センター)  
高岡 秀育 (教育支援課)  
山下 耕平 (国際交流センター)

### 世界食堂協力メンバー

石井 幸江 (管理栄養学科)  
清水 史子 (管理栄養学科)  
不破 真佐子 (健康デザイン学科)  
健康美プロジェクトメニュー提案チーム (SWU 学生)  
グローバル広報チーム (SWU 学生)  
TUJ 学生・職員 (グローバルフード大使)

### 広報

三宅 彩香 (財務部)  
西田 昌平 (総長・学長室)  
中村 公香 (アドミッションセンター)  
岡村 伸 (広報部)  
折田 奈緒子 (総務部)  
手塚 瞳 (広報部)

※所属は当時のものです。

## 感謝の言葉

昭和女子大学 名誉理事  
名誉教授

川平朝清



1990年、私は昭和女子大学創立70周年記念の年に非常勤講師として、キャンパスに一步を印しました。正門に入って、意外に中が広いことに驚いたことを覚えています。1992年には放送界を去り教授となり、その後学部長、副学長と思ってもよらぬ貴重な経験を積み重ねていきました。

2000年11月、創立80周年記念式典を終えた後、学長、校長、園長全てを兼任しておられた人見楠郎理事長が逝去、理事全員の要請を黙し難く、御息女の楳子さんがその跡を継がれました。新理事長は、すぐに福場博保学長、小林美佐子校長、渋谷弘子園長を任命、権限移譲を行いました。私は新設された副理事長として、楳子理事長を補佐する役目を仰せつかりました。

さらに新理事長は、理事会を開かれたものとするため、学識経験者として、経済界、官界、同窓会から、平尾光司、前原金一、坂東眞理子、田部井淳子の四氏をお招きすることにしたのです。学内では、小島徹常務理事、気賀澤洋文教務部長(教養学部教授)主導による教職員アンケートを実施することにしました。回答率85%に近い成果で、教職員の並々ならぬ関心と熱意を感じたものです。

また、大学としては珍しいコンサルタント企業に、大学のブランドイメージ、新学部構想またマーケティング調査を依頼しました。その結果を学内のプロジェクトチームが慎重に検討し、新学部の創設、コンピューターの積極的導入による事務系統の改革、新しい人事制度導入の諸案が理事会にて提出され、慎重協議の結果、初めて『使命』MISSION、『将来構想』VISION が打ち出されました。2002年9月19日のことです。

2010年創立90周年記念を終えた明るる年、楳子理事長は職を辞し、平尾光司さんが第四代理事長となりました。私もこの年退職、生涯で20年あまりも務めた唯一の職場でした。

2014年、第五代理事長に坂東眞理子理事・学長が着任、その後、学長には卒業生の金子朝子さんが任命されました。それからは、時代のニーズに応え新しい学部が創設され、環境整備が進められ2020年11月創立100周年を祝ったのです。創立70周年当時、7000名であった学園の規模は、この少子化の時代に、今や9000名を超える発展ぶりです。役員始め教職員の皆様のご努力に心から感謝いたします。



## あとがき

人見記念講堂にて創立100周年記念式典を執り行った2020年11月9日から、ちょうど1年が過ぎようとした今、創立100周年記念事業誌の完成を迎えました。世界規模のパンデミックにより、ドラスティックな変革を余儀なくされた社会の中で、学園は101年目をスタートしています。授業のオンライン化、オンライン留学、学寮研修の中止、ソーシャルディスタンスの徹底、黙食でいただくお弁当——学園が100年間で積み重ねた伝統や常識を見直しながらも、Withコロナ社会での教育の在り方を模索し続けています。

本誌でご紹介した「創立100周年記念事業」は、教職員や学生・生徒・児童・園児が、学園の節目の瞬間に立ち会えることを喜びに、手を取り合って活動を行って参りました。広報チームにて周年事業の記録として、本誌を制作するにあたり、ご協力いただいた皆さまへ、この場をお借りし、厚く御礼を申し上げます。

1920年、第一次世界大戦のもたらした世界規模の社会変革の中、創立した昭和女子大学。その100年後、パンデミックによって暗雲の立ち込めた世界でしたが、ようやく夜が明けようとしています。建学の精神を胸に、昭和女子大学はこれからも、困難に立ち向かう力をもって歩んでいくものと確信しています。創立200周年を迎える時、学園はどんなワクワクで満ちているのでしょうか。さあ皆で力を合わせて、創立200周年への歩みを進めましょう。

2021年11月 創立100周年記念事業 広報チーム



昭和女子大学 創立100周年事業  
2021年12月22日 発行  
発行者 学校法人昭和女子大学  
〒154-8533  
東京都世田谷区太子堂1-7-57  
電話番号 03-3411-5111(代表)

